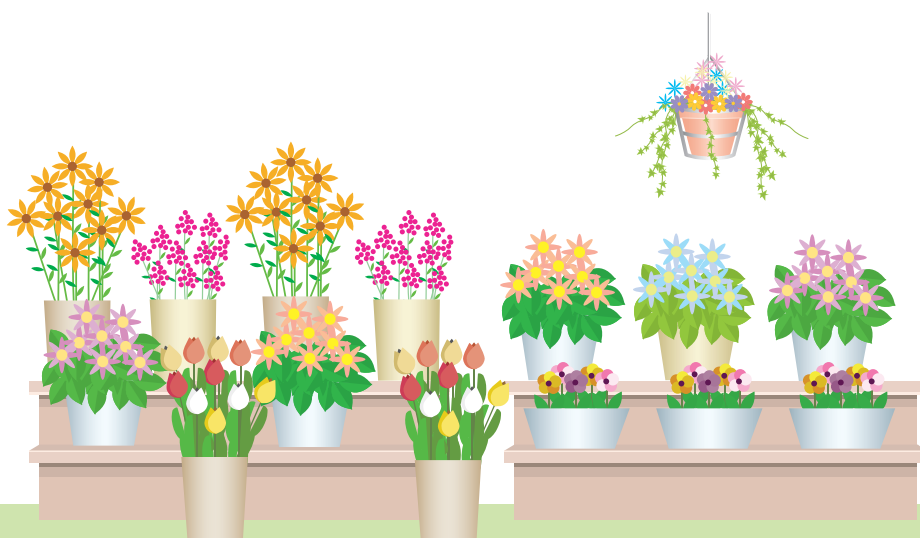




平成25年度 農林水産省
産地活性化総合対策事業
花き産業活性化事業(花育活動推進事業)

学校・地域活用 編

はないく 花育実践者向け マニュアル



全国花育活動推進協議会

はじめに

花や緑の多様な効能に着目し、花や緑を教育、地域の活動等に取り入れる取り組みである「花育」の推進を図ることは、児童・生徒の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供し、やさしさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また、地域活動においても、花や緑を介した世代交流により、地域のつながりを深めることが期待されています。

このため、全国花育活動推進協議会は、このような花育の社会的な効果や意義を踏まえ、花き業界関係者、教育関係者、都市緑化関係者及び地方自治体の教育・農林・都市緑化担当部局等との連携を図りつつ、花育活動の取り組みを全国的な運動として推進するために平成20年3月28日に発足し、これまで、花育活動の普及啓発、モデル地区での花育活動、花育アドバイザーの登録・紹介及び花育活動に関するアンケート調査等を実施してきたところであります。

本年度は、農林水産省の平成25年度産地活性化総合対策事業のうち花き産業活性化事業(花育活動推進事業)を活用し、これまでのモデル地区での花育活動の成果を生かしつつ、花き業界の専門家が創意工夫して開発・実践されてきた多様な花育活動に基づき、学校や地域で活用できる『花育実践者向けマニュアル』を作成しました。このマニュアルが花育アドバイザーや花育アドバイザーを目指す方々の資質向上や研修等、小学校の教諭にも積極的に活用されて全国各地で効果的な花育活動が展開されることを期待しております。

おわりに、この『花育実践者向けマニュアル』の作成に当たり、農林水産省生産局並びに花き業界の専門家や教育関係者で構成する花育活動推進検討会及び花育実践者マニュアル作成小委員会の委員をはじめ多くの方々にご協力・ご指導並びにご執筆頂きましたことに対して厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

全国花育活動推進協議会

会長 今西 英雄

「花育活動推進検討会」

順不同

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
日本ハンギングバスケット協会 理事	上田 奈美
株式会社フローレッツエンティワン	高杉 揚子
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華浩
一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長	野村 徹郎
生活科教育研究会 会長	三神 雄司
元川口短期大学 こども学科 教授	丹伊田 弓子
日本教育技術学会 会長	向山 洋一
日本生活科・総合的学習教育学会 副会長	吉田 豊香

「花育実践者マニュアル作成小委員会」

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
日本ハンギングバスケット協会 理事	上田 奈美
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華浩
神奈川県小田原市立酒匂中学校 総括教諭	石塚 英雄

目次



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた分かりやすい講座の進め方
花育実践者マニュアル小委員会 委員

神奈川県 小田原市立酒匂中学校 総括教諭 石塚 英雄 1

子どもを引き付ける話し方・・・花育を楽しく進めるために・・・
花育活動推進検討会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子 6

①栽培

地域と地元指導者との連携による花育活動

「UR 都市機構 賃貸住宅 5 団地での活動」 9

②栽培

小学校 生活科 1 年生

「アサガオで押し花を作ってプレゼントをしよう」 33

③栽培

小学校 生活科 1、2 年生 地域とのつながりをもって

「ひろげよう、とどけよう わたしのおくりもの」 39

④栽培

地域施設での花育活動

「園芸で元気いっぱい」 57

⑤栽培

高校生が取り組む花のまちづくり 65

⑥切花

切花収穫体験と花束作り・コサージュ作り

「地域の栽培温室で作っている花のことを学ぶ、楽しむ、贈る」 81

⑦切花

児童センターの小学生を対象にした花育

「簡単に飾れるクリスマスのいけばな」 93

⑧切花

地域特産の花を学んで楽しむ

「地域特産の花を使ってプリザーブドフラワーを作ろう」 99

「花育実践者マニュアル」一覧

専門分野	花育実践者マニュアル内容	作成者
苗・鉢物・栽培	① 地域と地元指導者との連携による花育活動 「UR都市機構 賃貸住宅5団地での活動」	全国花育活動推進協議会 事務局
	② 小学校 生活科1年生 「アサガオで押し花を作ってプレゼントをしよう」	学校法人清明学園 初等部 教諭 酒井 隆光
	③ 小学校 生活科1、2年生 地域とのつながりをもって 「ひろげよう、とどげよう わたしのおくりもの」	東京都府中市立府中第十小学校 教諭 鳥居 恵子
	④ 地域施設での花育活動 「園芸で元気いっぱい」	グリーンアドバイザー 中道 光子
	⑤ 高校生が取り組む花のまちづくり	公益財団法人全国学校農場協会 常務理事 千葉県立鶴舞桜が岡高等学校 教諭 風間 龍夫
切花	⑥ 切花収穫体験と花束作り・コサージュ作り 「地元の栽培温室で作っている花のことを 学ぶ・楽しむ・贈る」	香川県東讃農業改良普及センター 花き担当 副主幹 小林 弥生
	⑦ 児童センター小学生を対象にした花育 「簡単に飾れるクリスマスのいけばな」	公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事 新藤 華浩
	⑧ 地域特産の花を学んで楽しむ 「地域特産の花を使ってプリザーブドフラワーを作ろう」	香川県小豆農業改良普及センター 花き担当 副主幹 藤田 則久

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 分かりやすい講座の進め方

花育実践者マニュアル小委員会 委員

神奈川県 小田原市立酒匂中学校 総括教諭 石塚 英雄



全ての受講者が
学びに参加できる

多様な学びに対し
柔軟に対応できる



必要な学習活動に
十分取り組める課題設定が
なされている

視覚や触覚に訴える
教材・教具や環境設定
が準備されている



ほしい情報が
分かりやすく提供される

現実的に発揮することが
可能な力で達成感が得られる

間違いや失敗が許容され
試行錯誤をしながら学べる

受講者への指導・支援とともに講座改善のポイントとして活用していきましょう。

最初のつかみ

「あいさつ」をうまく使って受講者をつかもう

つかみとは、受講者の意識のベクトルを自分に向けることです。

人前で話す時、一番最初にこれをきちんとやっておけば、ずいぶん話を聞いてもらいやすくなります。では、どうすれば受講者の意識のベクトルを自分に向けることができるのか。

一番簡単で効果的な方法が「あいさつ」です。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」の3つをあいさつ言葉として推奨します。どれも基本的なあいさつ言葉ですが、基本的であるからこそ、このあいさつをすれば日本人ならほとんど無意識で同じあいさつを返そうとするでしょう。こうして、受講者の意識のベクトルが指導者に向くのです。

①「自分があいさつをした後、相手のあいさつをきちんと受ける間をとる」

スピーチの冒頭でせっかくきちんとあいさつをしても、「おはようございます〇〇です。では、始めさせていただきます」といった感じで、「相手からの返答」を待たないで話し始めてしまう人が非常に多いのです。これでは、せっかく受講者があいさつを返そうとしても返すことが出来ません。こちらからあいさつ言葉をかけた間をおいて、受講者からのあいさつを受け取るということが非常に重要になるわけです。

②「受講者から返ってきたあいさつを受け止めたという意思表示をする」

具体的には「アイコンタクトを取り、会釈またはお礼の言葉を返す」ということを行います。

アイコンタクトを取るためには、あいさつの時に深々と頭を下げず、「目線を受講者に向けたまま軽く会釈をする」程度にとどめます。その状態であいさつをすると、たいていの場合、受講者の視線は指導者に集まります。そのときにしっかりアイコンタクトを取りながら再度会釈をすると、相手が自分に意識を向けてくれたことを受け止めたよ、という意思をスムーズに伝えられるでしょう。また、そのときに言葉であいさつを返してくれるケースもあるでしょう。そんなときは軽く「ありがとうございます」と言葉で返しておくのも、相手のあいさつを受け止めたことを意思表示する非常に有効な方法です。

これをきちんと行うことによって、受講者は自分が話し手に受け入れられた、という事を具体的に認識し、意識のベクトルを話し手にしっかりと設定し、これから話すことをきちんと聞こうという心の準備ができる、というわけです。これをやるとやらないとでは、聞き手の気持ちが大きく変わってくるのです。自分と受講者と気持ちのやりとりをする必要性から、その意思表示をする一番簡単で、一番効果がある方法が、あいさつのプロセスです。あいさつ言葉に気をつけ、聴衆からのあいさつを受け取り、受け止めた意思表示をする、という「一往復半のコミュニケーション」を行い、自分の話をしっかり聞いてもらえる状態を作れることを、ぜひ心がけてみましょう。

ルールの確立「手順や工程」

話の聞き方の主体的な構えを作ります

○講座の始まりと終わりをはっきりさせるために、しっかり姿勢を整えてあいさつをします。

手順・工程や内容を明確にしましょう

○作業の手順や順番をわかりやすい図や写真、言葉で示します。「これから何をすればよいのか」などの重要な事項を視覚的に分かりやすく示すことが大切になります。

講座の見通し

講座のめあて（目標）や流れを黒板などに掲示しましょう

○講座のめあてや流れを明示することで、見通しをもって講座に臨むことができ、主体的な学びが期待できます。

今、講座のどの段階で何が行われているかを示しましょう

○今、どこをやっているのか、どこまでやれば終わり（区切り）なのかをはっきり示します。

刺激への配慮

視覚による刺激の調整・軽減に配慮をしましょう

- 日光の差し込んでくる方向（指導者が窓際に立つ）に立つと、受講者はまぶしくて見えづらく、指導者の表情も分からないため、立ち位置には注意が必要です。
- 配慮したい刺激として、次の3つのようなことが挙げられます。
 - ①情報過多な視覚刺激、②混乱を招く聴覚刺激、③影響しあいがちな人的刺激

分かって動ける「環境」づくり

物理的支援環境と人的支援環境の整備をしましょう

- ①物の配置
- ②能率的で、効果的な動線
 - ・ムダな動きを省く（機能的な動きであるか）
 - ・移動距離を最短距離にする
 - ・受講者同士の動線が交差・重複しない
 - ・受講者と指導者の動線が交差・重複しない
 - ・期待される活動がわかりやすく自分で行いやすい
- ③受講者の活動位置
- ④指導者の位置取り・果たす役割



講座の組み立てと集中・注目・指示のポイント

「教えるべきこと」を学びの流れにのせる展開の工夫をしましょう

- 盛りだくさんの教材、内容、活動が用意されているが、受講者にとっては、それぞれが未消化のまま、何を学んだか分からないまま終わることがあります。教えるべきことを絞り込みましょう。
- 講座は、教える指導者と学ぶ受講者の活動が一体となった展開が大切です。教えるべきことを受講者の学びたいことに転化していくためには、教える側の立場ではなく、学ぶ側の立場で講座の流れを考えることが必要です。
 - ①学習させたいことを学習したいことに転化させる導入と学習の「流れ」づくり
 - ②予測するつまずきへの対応策への適時性・的確性の向上
 - ③「学んでよかった」「もっと学びたい」「家でもやってみたい」と実感させる終末の実現
 - ④学ぶ側の意欲や活動を連続させる板書・発問・机間指導等のあり方

「聞く活動」と「他の活動」は時間を区別しましょう

- 受講者に聞く準備をさせましょう。グループで座っている時には、膝をこちらに向けさせましょう。
- 聞きとりやすい声の大きさ、速さを心がけましょう。一本調子で話すと、あきて集中しなくなります。時には、ゆっくり話したり速く話したりして、話しにメリハリをつけると、受講者は集中して話を聞くようになります。
- 受講者に個別の活動に取り組ませている間は、基本的に全体への指示は控えます。活動にメリハリができ、集中が途切れずに参加しやすくなります。
- 聞き漏らしをなくし、講座に集中させるには、注意を喚起し、受講者自らが対象に意識を向けることが重要になります。耳を傾けさせるだけでなく、視線を引きつけ、手を統制し、姿勢を正すなど「聞く構え」を作ることが重要です。



◎重要な話は、同じ立ち位置で話しましょう

- 机間指導中や受講者の背後からの話は避けます。
- 立ち位置を決めておくと大事な話であることを意識できるようになります。
- ハンドサインなどを決めておくと、指導者の話が始まることを意識できるようになります。

短く、端的な説明をしましょう

- 説明する前に「◇◇について話します」と、予告して指示を一つずつ出します。
- 口頭の指示だけではなく、板書、掲示、メモなどの見える指示も活用します。
- 明確な指示を出しましょう。要点を押さえ、短い言葉で示します。「3つ話をします。1つめは… 2つめは… 3つめは…」
- ジェスチャーを使いましょう。身振り・手振りを使い、受講者の前で話す時には、役者になりましょう。
- 全員の受講者を見ていますか。一人ひとりの受講者と目を合わせていますか。時には、受講者たちに投げかけ、意見や考えを吸い上げながら話を進めましょう。



板書の工夫

板書を工夫するとともに、プロジェクター等の活用をしましょう

- 板書の基本は「正・速・美」（正確さ・発達段階に応じた速さ・構造的に整理されていること）
- チョークは色分けをし、基本は白と黄を使用します。ポイントを分かりやすく強調したり、受講者の年齢に応じて、見やすい文字の大きさを調節します。

- プロジェクターやデジタル黒板、実物投影機などは、見るべきポイントがはっきりしているので、注目しやすく効果的です。
- ビデオを活用することで、方法や手順などを理解しやすくなります。自分で何度でも見直すことのできるコーナーがあるとより効果的です。



参加の促進

目的をもった机間指導を行いましょ

- 全体への説明後、個別の説明が必要な受講者への計画的な机間指導を行います。
- 不安を感じながら、作業に取り組んでいる受講者もいるので、「それで、いいよ」「大丈夫だよ」など、こまめにプラスの評価を与え、安心して取り組めるようにします。

活躍できる場や活動を用意しましょ

- 個々の学び方の違いを考慮するとともに、個人差の状況を把握し、できそうなことをスモールステップで示し、できたことで自信をつけさせます。

自分の講座の進め方をチェック

Plan → Do → Check → Action → Plan に生かす

- Plan（計画）→ Do（実践）→ Check（評価）→ Action（改善）→ Plan に生かすという過程を着実に行うことが大切です。
- 自分の講座をビデオに撮り、ビデオを見直すことで、表情、話し方、言葉遣い、身振り、立ち位置等を確認しましょう。
- 講座の進め方を磨き合うためには、ビデオをもとに議論をすることが大切です。経験や感覚・印象だけの抽象的な議論では改善につながりません。
- 付箋紙を用いて、改善の方向性を導き出してみましょ。参観者は、授業を参観しながら、「授業の視点」を中心に気づいたことをどんどん付箋紙に書いていきます。

〔付箋紙に書くときの約束〕

成果や課題を色の違う付箋紙に書いて貼るなどの工夫をするとよい。

成果

ピンク色～（プラス面の事項）

手立てについての成果、学んだ点、感心させられたこと、工夫が見られる点、よさなど

課題

水色～（マイナス面の事項）

改善を要すると思われる点、課題として挙げられる点、気になることなど

- ・糊が付いた部分を上側にして、横書きで書く。
- ・1枚の付箋紙に1つの事柄を記入する。
- ・どんな気付きでもよいので、感じたこと、考えたこと等を自由な発想で書く。
- ・読みやすいペンを使い、なるべく大きな字で簡潔に書く。（1～2行で）
- ・右下に名前（イニシャル等でよい）を記入する。

【参考文献】『誰にでも分かりやすい授業 どうしたらいいの?』埼玉県立総合教育センター

子どもを引き付ける話し方

・・・花育を楽しく進めるために・・・

花育活動推進検討会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子

難しいことを易しく、易しいことを楽しく伝える

花育実践が積み重ねられて、事例や資料も蓄積され、花育実践も「まず、何をするか」から、「より良く伝えるためにどのようにするか」の段階へグレードアップしてきました。「どのように伝えるか」の一つの課題として挙げられたのが「いかに易しく、いかに楽しく」です。

ここでは、そのための大きな要素である「子どもを引き付ける話し方」に、立ち止まってみたいと思います。

■「講演」と「授業」の違い…聞き手の反応を確かめながら進めましょう

ゲストティーチャーとして、花育実践現場へ参加する場合と、講演会で講演者が講演することは、「1度の出会いで、何かを伝える」と言う点ではよく似ています。そして、どちらも「心を込めて、誠実に話し、難しいことを易しく、易しいことを楽しく伝えよう」と、全力を尽くす事には変わりありません。しかし花育実践は授業ですから、講演会以上に、授業としての役割である「聞き手が理解できているか、目標とした活動ができているかどうか」を意識しながら進めましょう。

■好感の持てる話し方のポイント

①聞きやすい印象を与える

- ・明るい笑顔、穏やかな声、はっきりとした発音で話しましょう。
- ・その時間のテーマをはっきりさせましょう。
*聞く目的がはっきりすると何のために聞くかが分かり、聞く必要感が出て来ます。
- ・授業の順番を伝えましょう。
*見通しをもって、安心して聞くことができます。

②聞き手の話を聞く姿勢を見せる

- ・一方的に説明だけするのではなく、声掛けや簡単に答えられる質問をして、子どもたちのつぶやきや意見を受け止めましょう。「うなずき」「共感のひとこと」「発言への、しっかりした答え」で「あなたを見ていますよ」と言うメッセージを子どもたちに送ることができます。
- ・出来るだけ個人名を呼び、「私と先生は1対1」という気持ちをもてるようにしましょう。
*大人は聞いたことの中から自分に必要なことを取捨選択しますが、子どもは年齢が低いほど、自分にとって必要のないことには、興味を示さないのが発達上自然な姿です。親近感を与えながら徐々にやってみたいという気持ちを引き起こしましょう。

導入での話し方の一例

『フラワーアレンジを楽しもう』の場合

■挨拶

「○○小学校○年の皆さん、こんにちは。

こんにちは、○年生の○○先生にお願いして、みなさんと一緒に勉強しに来ました●●です。私の仕事は花屋さんです。毎日たくさんの花に囲まれて働いています。」



学校の先生の名前を言うと、初対面でも子どもたちが親近感を持ちやすいようです。また、手を揚げやすい質問をいくつか子どもたちに行ってみましょう。

「花が好きな人？」

「花を育てている人はいますか？」

「花屋さんになりたいと思っている人いる？」

「花をプレゼントしたことある人はいますか？」

「花の名前を知っている人？」 など



子どもたちの名前が名札やうわばきなどを見てわかる場合は、名前を呼んであげるとよいでしょう。

■今日のテーマを提案する

今日つかう花を何本かもって、見せながら

「今日は今の季節にある花で、私の好きな花を持ってきました。おなまえは？○○さんね、どれが好き？」

など2, 3人に聞いてから

「じゃあみんなに聞いてみよう、これが好きな人？じゃあこれ好きな人は？・・・これ、人気ですね。」

フラワーアレンジの完成作品を一つ見せて

「今日持ってきた花で、これを作りました。これは○○先生にお渡ししましょうね。」

今日は、○○さんにも、○○さんにも、皆さんに自分でフラワーアレンジを作ってもらいますね。」

子どもたちの作ってみたいという反応を受けとめて、「フラワーアレンジを楽しもう」と今日のテーマを板書し提案します。

■自分のやることに見通しを持たせる

「皆さんが、やることは2つあります。まず最初に好きな花を選びます。次にその花を自分でいけます。」



今日の活動のゴールまでの順番を示し、見通しと目的をはっきりさせましょう。

見通しを立てるため、工程の説明と完成した作品を見せますが、活動の具体的な説明はそれぞれのステップごとに行いましょう。

フラワーアレンジを楽しもう

1. 花をえらぼう

- ①花のせつめいを聞く
- ②好きな花を○本決める
- ③花をとりに行く

2. 花をいけよう

- ①花の切り方のせつめいを聞く
- ②花を切り、いける
- ③家でのおせわのしかたを聞く
- ④友だちの作品をみてみよう
- ⑤えらんだ花の名前やかんそうを書く

■ステップごとに具体的な作業の説明をする

「まず、今日使う花について説明をしますのでよく聞いてくださいね」



「面白そう、話を聞いてみたい」という気持ち呼び起こすために、花の名前や産地などをクイズにして楽しく説明しても良いでしょう。

例) 「この花の名前を知っている人？」

「この花はどここの国から来ていると思う？」



香り、手ざわりなどの特徴があるものは、見本を回して実際に触ったり香りを試してみましょう。

実際に自分で選んだり作ったりできるんだ、やってみたいなという気持ちが出てきます。

そのあとのステップでも具体的な説明だけでなく、「難しいことを易しく」「易しいことを楽しく」伝える声掛けをしながら子どもたちの理解や反応を確認しましょう。

お友だちが花を取りに行っている間に、自分の好きな花を考えておいてくださいね

花屋さんに行ったつもりで自由に選びましょう

お花をいけるのは難しかった？
楽しかった？

仕上がった人は、友だちの作品も見てみましょう

世界でひとつだけの作品が出来ましたね

花の切り方の説明をしますので、良く聞いてからハサミを使ってください

花がいきいきしてるかな

左利きの人はいますか？

自分が選んだ花の名前を覚えていますか？
書いておきましょう



フラワーアレンジの作品が完成し、机の上を片付け先生に注目したら、作品について良いところをほめたり、意見や感想を話し合ってみましょう。

地域と地元指導者との連携による花育活動 「UR都市機構 賃貸住宅5団地での活動」

作成者：全国花育活動推進協議会 事務局

■ 対象者：団地住居者や自治会等（各30人程度）

■ 所要時間：1時間半～2時間程度

■ 対象場所：団地内の敷地

（花壇や壁面など協議の上決定）

■ 指導者：講師1名、アシスタント2名

（花育アドバイザー、ハンギングバスケットマスター、グリーンアドバイザーなど）

■ 協力：独立行政法人都市再生機構

本事業の実施に当たっては、UR都市機構の5団地に参加をいただき、自治会等の協力のもと実施。



1. 事業の目的

- ・花や緑の多様な機能に着目し、花や緑を教育・地域の活動で取り組みの推進を図り、幼児・児童・生徒の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供する。
- ・地域活動に、より花のある街づくりや植物を育てる活動が積極的に行われ、地域の環境整備などを通じて、花や緑を介した世代交流や地域のつながりを深める。

2. 実施内容(各団地2回開催)

- ・実施する内容については、自治会や参加者と協議を行い、各団地2回実施。
団地内の敷地や花壇などを活用して、花壇作りやイベント等でのワークショップ、集会所での講習会などを開催した。
- ・実施の予算については、1人当たり花材費・資材費500円程度とした。

3. 実施地域

- ・東日本支社 藤の台団地（東京都町田市）
- ・西日本支社 逆瀬川団地（兵庫県宝塚市）
- ・埼玉地域支社 プラザシティ新所沢（埼玉県所沢市）
- ・神奈川地域支社 サンヴァリエ日吉（神奈川横浜市）
- ・千葉地域支社 習志野台団地（千葉県習志野市）

4. 各団地の活動内容

■ 東日本支社 藤の台団地（東京町田市）

協力：UR都市機構 神奈川県地域支社、藤の台花の会

講師：日本ハンギングバスケット協会 東京支部 宇野知恵子先生

【実施スケジュール】

日程	内容
平成25年 8月27日	団地自治会、花の会との顔合わせ・打ち合わせ ・実施内容の決定
〃 10月中旬	花壇の土留めなどの土木工事終了（UR都市機構にて実施）
〃 11月16日	1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ） 「花壇作り（花苗の植え付け）」実施 参加者35名
平成26年 2月6日	2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ） 「春からの花壇作りについて」講習会 参加者20名

1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ）

日時：平成25年11月16日13：30～15：30「花壇作り（花苗の植え付け）」実施

場所：藤の台団地内花壇

藤の台団地では、「藤の台花の会」が団地内の共有花壇を管理・運営しており、花の会の協力を経て、既存の花壇1ヶ所と新設した花壇1ヶ所で花壇作りを実施した。

■ 事前の準備

- ・団地内の広報等でイベント告知を行い小学生や親子の参加を募集する。
募集や告知については、花の会を主体として実施を行った。
- ・既存の花壇を活用して、秋から春頃まで楽しめる花を計画。花苗については、講師が準備・搬入を行った。

□花材一覧

- ・ビオラ
- ・パンジー
- ・ストック
- ・ハボタン
- ・カレンデュラ
- ・シロタエギク
- ・メラルーカ
- ・コヤブラン
- ・ゴールドクレスト
- ・ヘデラ
- ・球根（チューリップ、ムスカリ）など



ビオラ、ストックなど、さまざまな花苗を講師が用意

■ 当日の流れ

①花壇の土は、肥料を入れて耕してならして置く。(藤の台花の会)



既存の円形花壇 (直径約150cm)



新設の長方形の花壇

②講師の宇野先生から花の名前や特徴、本日の作業内容や手順などを聞く。

花の名前の由来などもわかりやすく解説。



左から、斉藤先生、坂井先生、宇野先生



花苗や植え方の説明

③花壇での花苗の植え付け

藤の台花の会の方々にお手伝い頂き、団地の子ども達と一緒に植え付けを行った。



<花壇の植え付け前と植え付け後>

既存の円形の花壇



before



after

「太陽の子ども達」をテーマに明るい色合いの花壇に。



<植え付け2ヵ月後の花壇>



新設した長方形の花壇



before



after

大人の色合いで、シックな花色でコーディネート。



花壇作成終了後に、花の会の方や希望者でペットボトルのハンギングを作成。
作ったハンギングバスケットは、各町会のフェンスなどに飾り付けを行った。



2. 花育事業実施 第2回花育ワークショップ

日時：平成26年2月6日13：30～15：30「春花壇作り講習会」実施

場所：団地内「エルダーラウンジ」

第2回目は、11月に植え付けを行った花壇の今後の管理やより良い花壇を作るため、室内での講義を実施した。

■ 当日の流れ

①花壇の植え付け後、約3ヶ月が経過。

花の様子や生育状況を踏まえて、今後の管理方法や今後の植えかえについての講習会を実施。

「魅力ある花壇作りを考える」

「かぶれる園芸植物について知っておこう」



②藤の花の会の方から、植物についての多くの質問が寄せられ、熱心な質疑が続いた。



参考資料：当日の配布物

魅力ある花壇作りを考える

- ★「どこに、どんな花壇を、どうやって作るか」が大切。
- ★「庭もが参加できる花壇デザイン」
- ★タネから花壇用苗を育て替えたり、寄せ植えなどで植栽作りをして、花壇に活用すること。は環境教育の一環にもなる。
- ★少子高齢化が進む場合は多年草を多用し、葉やかな一年草をポイントに使用する。
- ★近道への水産りは自然の気候任せなので栽培が容易な観葉に多く花期が長く一度植えたら数ヶ月楽しめる種類にする。花期が長いことは植栽の学習教育にも繋がる。
- ★年間作業計画を立てる。
- ★地域に植え込まれた花壇は周りに癒しを与え、地域のコミュニティにも繋がる。

I. 場所

◎南向き、◎東側、◎西側◎北側【植まをや種し木に向く】□

II. 土作り

- ・深さ30cm程に掘り返し【施肥】古い根や木片を取り除き腐葉土や堆肥を混ぜ込む。
- ・石灰を1㎡に200g程を一周間置く【国産品にはマグネシウムが入った腐土石灰が良い】
- ・元肥を施す【マグァンプ粒など、野菜用は花がつかなくなる】
- ・花壇の奥行きが1mを越す場合はメンテナンスしづらくなるので耕さない通路を作る。

III. 定植をする。

- ・花壇のデザインを決める。
- ・株元までしっかり土を寄せます。
- ・植えたあと、たっぷりと水やりする。
- ・薬害の元は根が付かないようにワラ等を敷く。
- ・根の状況にあった移植をする。

IV. メンテナンス

- ・花柄摘み：□そのままにしておくと見栄悪い。体力を奪われ花が付かなくなる。
- ・切り戻し：□産期に三分の一までカットし群生を増やす。
- ・施肥をする：□量肥をするか2000倍液肥を水代わりに与える。

V. 個人の花壇の配置

草の花：パンジー、プリムラ、ノースポール、アリッサム、キンギョソウ、カレンデュラ、菜の花

ストック、アネモネ、ガザニア、ウスシナガサ、オトコバナ、ホビークマ、ストロベリーキャンドル

夏の花：サルビア、マリーゴールド、ニチコソウ、バゴニア、ホーチュラカ、スランホジュム、コリウス、アグラタム、ジニア、カンナ、ルドベキア、アマランサス、チェリーセージ、バードオブパリス

秋の花：キキョウ、コスモス、ユリオブシスター、パンクス、インパチェンス、キバナコスモス、白枝セニチソウ、リネアリス、ナスターチウム、ヒメツルソバ、タマシタレ、ローズマリー

かぶれる園芸植物

◎アレルギー性皮膚炎

- ★植物によるかぶれの多くはアレルギー性。
- ★庭もがかぶれるのではなく限られた人だけが皮膚炎をおこす。
- ★何回か続けている内に皮膚炎になり度重なる弊に悪化する傾向にある。

★予防

- ・かぶれる植物を知り近づかないようにする。
- ・植物の汁、乳液を皮膚につけない。【汗後でぬぐう、×アルコール】

★かぶれをおこす植物が多い科

- ・イラクサ科【除虫】イラクサ、ムカゴイラクサ
- ・ウルシ科【乳液】ウルシ、ツタウルシ、ヤマハゼ、ヤマウルシ【スルデはかぶれない】
- ・キク科□キキョウ、ミヤコワスレ、マーガレット、ブタクサ
- レタス属、スーパの店員、葬儀社の店員の職業性皮膚炎。
- ・キンポウゲ科【乳液】アネモネ、クリスマスローズ、クレマチス、ランタナ、キョウリソウ
- ・サクランボ科【除虫】オプコニカ、シネンシス、マロコイデイス
- 日本サクランボ、ポリアンサ、ジュリアンはかぶれない。
- ・サトイモ科【乳液】サトイモ科のほとんど、ミスバショウ、サゼンソウ
- 根茎を煮しく煎液する。サトイモ、タロイモの根は有毒。
- ・サボテン科【芒刺】キンエボシ、マツアラシ
- ・シソ科【除虫、精油】シソ、ミント、ラベンダー
- ・ジンチョウゲ科【乳液】ジンチョウゲ
- ・セリ科【乳液】セロリ、ハナウド
- ・トウダイグサ科【乳液】ハツユキソウ、ポインセチア、ハナキリン、ミドリサンゴ

※その他

- ・ウコギ科のククレミノ【樹液とおがくす】
- ・ノウゼンカズラ科のノウゼンカズラ【樹液】
- ・イチョウ科のイチョウ【キンナンのまわりの部分】キンナン(BC)の人はウルシもBC
- ・ガガイモ科のフウセントウワタ【樹液】目に入ると角膜炎が白く視力低下
- ★青雉で豊富な中毒になった例は多い。
- ★ダリアは赤毒。
- ★ヘビイチゴは赤毒。

■ 西日本支社 逆瀬川団地（兵庫県宝塚市）

協力：UR都市機構 西日本支社、逆瀬川団地自治会

講師：日本ハンギングバスケット協会 兵庫県支部 稲澤範治先生

【実施スケジュール】

日 程	内 容
平成25年10月17日	団地自治会との顔合わせ・打ち合わせ ・実施内容の決定
〳 10月下旬～	花壇の新設整備を実施（UR都市機構にて実施） ※平成26年3月までに完成予定
〳 12月6日	1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ） 「花壇作り（花苗の植え付け）講習会」実施 参加者20名
平成26年 2月28日	2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ） 「花壇作り」実施 参加者40名

1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ）

日時：平成25年12月6日13：30～15：00「花壇作り（花苗の植え付け）講習会」実施

場所：集会所

逆瀬川団地では、自治会を中心に花壇の管理・整備が行われており、新しく入口近くに新設される花壇を活用させて頂き、今回の活動を実施することとなった。

花壇が、2月頃に完成を予定している為、植え付け前に「花壇作り」についての講習会を実施し、植物や土作りについての勉強を行うこととした。

■ 当日の流れ

①講師のハンギングバスケット協会 兵庫県支部長 稲澤先生から

「花壇づくり」について説明を受け、花壇作りに必要な事柄を学んだ。

講習内容

- ・花壇の土の準備
- ・土のリサイクルの仕方
- ・作りやすい花壇
- ・いろいろな花壇
- ・花壇づくりを楽しむ
- ・改良用土の種類と効用
- ・花をたわわに咲かせるには



逆瀬川団地集会所にて

②花壇予定地を視察

花壇予定地は、道路に面しており、団地の入口付近に位置しているため、日当たりが良く人目につく花壇である。

季節の移り変わりなどが感じられるような四季の花があると良い。

花壇を囲んで、人と人が会話を交わしたり、のんびりとくつろげるような空間となる。



10月頃の花壇予定地



12月6日講習会当日の花壇予定地

2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ）

日時：平成26年2月28日13：30～15：00「花壇作り」実施

場所：入口花壇

12月に実施した「花壇作り」講習会を踏まえて、花壇作りを実施した。近隣の幼稚園にもご参加をいただき、園児（年少）と自治会の方々と一緒に楽しく植え付けを行った。

■ 事前の準備

①完成した花壇

花壇に使用する土は、生育が良くなるように水はけ、水持ちなどを考慮して、腐葉土や川砂などを多く配合して改良を行った。



新設した花壇

②講師の稲澤先生からの作業内容についての説明や植栽についての説明

- 1年草
 - ・ピオラ
 - ・パンジー
 - ・ノースポール
- 樹木
 - ・サザンカ
 - ・シモクレン
 - ・レッドロビン
 - ・マユミ
 - ・ムクゲ
- 低木類
 - ・フィリフェラオーレア
 - ・マホニア“コンファーサ”



③花壇の植え込み部分の土の表面を平らにならす。

(土の表面を平らにすると、水が均一に浸透する。)



④植栽は、植付ける前に土の上に並べて配置を確認する。

確認ができたら、大きな樹木を先に植える。



⑤幼稚園児は、1グループ4人程度で植付けを行い、大人がグループに1人から2人でサポートする。

園児が植えた後は、しっかりと土がかぶせられているか大人が確認すること。



⑥園児がポット苗を植え終わったら、大人が確認をしながら低木なども植えていく。



⑦植え付け後は、ホースやジョウロなどを使ってたっぷりと水を与える。
花には、水が直接かからないようにして根元に与えること。
水の量は、花壇の下まで水がしみ出るぐらいが目安。



花壇の植え付けに参加いただいた、UR都市機構 西日本支社、逆瀬川団地自治会の皆さん、稲澤先生

■ 埼玉地域支社 プラザシティ新所沢（埼玉県所沢市）

協力：UR都市機構 埼玉地域支社、自治会

講師：日本ハンギングバスケット協会 埼玉県支部長 浅見敏枝先生、加藤美和子先生

【実施スケジュール】

日程	内容
平成25年 8月30日	現地集会所での関係者顔合わせ・打ち合わせ ・実施内容の調整
〃 9月20日	現地打ち合わせ ・実施内容詳細について確認
〃 10月19日	1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ） 「芝ぼうや作り」実施 参加者30名（親子含む）
〃 11月16日	2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ） 「花の寄せ植え作り」講習会 参加者30名（親子含む）

1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ）

日時：平成25年10月19日①10：30～11：15 ②11：30～12：15 「芝ぼうや作り」

場所：URプラザシティ新所沢けやき通り

まちかど広場・所沢警察署緑町交番前

多くの子供や親子に参加してもらえるように、URプラザシティ新所沢けやき通り まちかど広場で開催される「とこすた☆マルシェ」内のイベントとして開催した。

小さい子供にも楽しんでもらえるプログラムとして「芝ぼうや作り」を実施した。

■ 事前の準備

・団地内の広報等でイベント告知を行い小学生や親子の参加を募集する。

募集や告知については、近隣の小学校にも協力をいただき募集案内を配布した。

■ 当日の流れ

① 屋外での開催の為、テントを設置しテーブルやイスなどを準備。

② 受付を設置し、参加者の出欠確認等を行った。



事前準備から、当日の受付まで
お手伝いいただいた埼玉地域支社の皆さん



テント、テーブル、イスは自治会の備品

③テーブルには、汚れ防止用の新聞紙を貼り、各テーブルに道具や資材を1人分ずつ準備する。

※作り方については、「副読本：芝ぼうや」作りを参照



④講師の浅見先生と加藤先生による「芝ぼうや」作りの説明



加藤先生



テント内でのワークショップ風景



浅見先生

「芝ぼうや」



作成直後の「芝ぼうや」



約1週間～10日後



頭から芝の髪の毛が生えてくる

2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ）

日時：平成25年11月16日①13：30～14：30 ②14：45～15：45「花の寄せ植え作り」

場所：URプラザシティ新所沢けやき通り

集会所前

2回目の開催は、家でも花・緑を楽しんでもらえる内容として「花の寄せ植え作り」を実施した。作成した寄せ植えは、各家庭に持ち帰り観察をしながら育てる。

秋から春まで長く楽しめる「ビオラ」と「チューリップの球根」を植え付けた。

■ 事前の準備

- ・団地内の広報等でイベント告知を行い小学生や親子の参加を募集する。
- ・募集や告知については、近隣の小学校にも協力をいただき募集案内を配布した。

■ 当日の流れ

①集会所前のテラスにテーブルやイスなどを準備。

②「花の寄せ植え作り」の花材や資材を準備。

- ・ビオラ 2ポット
- ・チューリップの球根2個
- ・プランター ・培養土
- ・肥料 ・鉢底ネット
- ・土入れ（ペットボトルで作成）
- ・油性ペン（名前を書く）

③講師の先生から花や植え方の説明。

- ・片方の手で、しっかりと苗の根元を押さえ、花苗を逆さまにしてビニールポットから引き抜く。
- ・プランターに3～5cm程度の培養土を入れて、花苗を置き根元までしっかりと培養土を入れる。

④出来上がった寄せ植えには、作った日付とメッセージを書き大切に育てる。





「花の寄せ植え作り」に参加いただいた団地の皆さん

⑤各家庭に持ち帰り、月に一度観察を行う

～花育～「フラワープランターを作りましょう」

名前
住所
電話
※先生からの返信を希望される場合は、住所を記入。

今日から、自分だけのオリジナル「フラワープランター」を大切に育ててくださいね。大切に世話をすると5月まできれいな花が楽しめます。月に1回、花の成長を撮影して「観察の記録」を付けましょう。来年の1月まで記録したら「観察記録」を先生に送ってください。質問や困ったことなども書いてください。

	平成25年11月16日(土) 11/16 観察	平成25年12月16日(月) 12/16 観察	平成26年1月16日(木) 1/16 観察
先生からのコメント	ビオラと球根を植えました。早くお花がたくさん咲くといいですね。	ビオラを植えしてから1カ月がたちました。お花のよさずはどのようですか？いくつかの葉がさいているかな？	ビオラを植えしてから2ヵ月です。葉が大きくなったり、はじめより大きくなっていますか？がんばってお世話しましょう。
写真をはりましょう			
花や葉の様子を写真で記録しよう	今までもいろいろ花を植えたことがビオラは初めてです。植え終った花は、白の紫の咲いています。2月まで咲いてほしいです。	花が1月以上に咲いて、1株か2株のくらい咲くか楽しみです。	11月21日株も大きくなり花もいっぱいになりました。12月まで白2/咲き紫7咲きました。
育てた感想を書きましょ	咲き終り株を茶から取り次の花が又出て咲いてほしいです。少し花がさびしくなりました。	次々に咲いて嬉しいです。	こんなに楽しんで良かったです。頭頃球根の芽が出てくるのが楽しみです。ありがとうございました。
アドバンスの先生からのイラスト			

＜呉謝者の方へ＞
今後の花の管理などのご質問などがございましたら、当該機会までお問い合わせください。
また、月に1回の栽培記録の記入をしていただき、1月まで書き終えたら2月10日頃までに返信用封筒に同封の上、当該機会宛てにお送りください。皆様ご協力お願いいたします。先生からの返信やアドバイスを記入して返信いたします（返信先のご住所をご記入ください）。
栽培記録の送付は、メールでも可能です。記載用フォーマットがありますので、右記のメールアドレスまでお知らせください。

＜お問い合わせ先＞
全国花育活動推進協議会 事務局 星宛
〒103-0004東京都中央区東口本橋3 6 17 4号
電話：03-3664-8739 FAX:03-3664-8743
mail: jtkc@ipc.or.jp

■ 神奈川地域支社 サンヴァリエ日吉（神奈川横浜市）

協力：UR都市機構 神奈川地域支社、サンヴァリエ日吉自治会、横浜市立下田小学校
講師：日本ハンギングバスケット協会 神奈川支部 安田秀子先生

【実施スケジュール】

日程	内容
平成25年10月21日	現地集会所での関係者顔合わせ・打ち合わせ ・実施内容の調整
〃 12月7日	1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ） 「ペットボトルハンギング作り」実施 参加者20名
平成26年3月9日	2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ） 「芝ぼうや作り」講習会 参加者20名（親子含む）

1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ）

日時：平成25年12月7日①10：30～12：00 ②13：30～15：00

「ペットボトルハンギング作り」実施

場所：集会所内

実施に当たり、団地内の花壇なども検討したが、既存の花壇などの使用が難しい為管理センターのフェンスを飾る「ペットボトルハンギング」を作成することになった。身近なペットボトルのリサイクルとしても活用できるため、自宅のベランダなどでも楽しめる。

管理センターフェンス
ハンギングバスケットを設置予定場所



■ 事前の準備

- ・団地内の広報等でイベント告知を行い小学生や親子の参加を募集する。
募集や告知については、近隣の小学校にも協力をいただき募集案内を配布した。

■ 当日の流れ

- ①集会場に、イベント開催のチラシなどを準備する
会場内のテーブルの上には、資料や資材を配布しておく。



- ②講師の安田先生から作り方の説明
・ペットボトルを使ってハンギングの容器を作成する。

※作り方は、副読本「ペットボトルハンギング」作り参照。



ペットボトルで作ったハンギング容器



- ③作成した、容器に花苗を植え付ける。
(屋外で作業する)

□花材

- ・ビオラ 2ポット
- ・シロタエギク 1ポット



④床が汚れない様に、新聞やビニールシートを敷き作業をする。



⑤花苗の植え付けが終わったら、ペットボトルの上からゆっくりと水やりをする。ペットボトル容器の下から、水が出るまで十分に水やりをする。



⑥しっかりと水やりが終わったら飾り付ける。



出来上がったペットボトルハンギング

2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ）

日時：平成26年3月9日①10：30～12：00 「芝ぼうや作り」講習会

場所：集会所内

子供や親子が楽しめる内容として「芝ぼうや」作りを実施した。

団地内での募集と合わせて、小学校でも参加募集を行った為、団地外の小学生からも参加があった。

■ 当日の流れ

- ①集会場に、イベント開催のチラシなどを準備する。

会場内のテーブルの上には、資料や資材を1人分ずつ配る。

講師の安田先生から作り方の説明



- ②芝ぼうやの顔や洋服の模様は、用意したフェルトやモールなどを使って自由にデザインする。

笑った顔やおどろいた顔など様々な表情の芝ぼうやを作ると面白い。



- ③出来上がった「芝ぼうや」

家に持ち帰ったら、バケツに水をためて、頭の部分を入れ30分程度吸水させる。

十分に頭に水がしみ込んだらペットボトルの体に、頭を設置して、日当りの良い場所に置く（7日～10日ほどで頭から芝が芽を出す）。



■ 千葉地域支社 習志野台団地（千葉習志野市）

協力：UR都市機構 千葉地域支社、習志野台団地自治会、花愛好会

講師：ちば・花緑の会 望田明利先生、山口まり先生

【実施スケジュール】

日 程	内 容
平成25年10月9日	現地集会所での関係者顔合わせ・打ち合わせ ・実施内容の調整
〳 10月下旬	既存花壇の土の入れ替え完了
〳 12月14日	1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ） 「花壇作り・花の植え付け」実施 参加者30名
平成26年 2月23日	2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ） 「土と肥料の話」講習会 参加者20名

1. 花育事業実施（第1回花育ワークショップ）

日時：平成25年12月14日10：30～12：00 「花壇作り・花の植え付け」実施

場所：習志野台団地内花壇

習志野台団地では、日頃から積極的な花壇の維持管理が行われており、市内のコンテスト等にも積極的に参加をしさまざまな賞を受賞している。今回は、ツツジ等が植栽されていた既存の花壇を活用し、土を花苗用に入れ替えて新しく花苗を植える活動を実施した。

■ 事前の準備

- ・団地内の広報等でイベント告知を行い参加者を募集する。
募集や告知については、花の会を主体として実施を行った。
- ・既存の花壇を活用して、秋から春頃まで楽しめる花を計画。花材については、講師が準備・搬入を行った。



既存の花壇（ツツジなどが植えられていた）



枯れた植栽を抜き取り、土の入れ替えを行った
(UR都市機構にて実施)

自治会が花壇に、開催の告知と参加募集のPOPを設置して参加者を募集。



■ 当日の流れ

①ビオラ・チューリップの球根などの花材は講師が準備し、搬入。



②デザイン画を元に、花壇内に植栽位置の印を付けていく。



③印の上にポット苗を配置して、全体のバランスを確認する。





④講師の山口まり先生のビオラの説明と植え方の説明。



⑤参加者によるビオラの植え付け
ビオラの中に、チューリップの球根を植える。



⑥植え付けが終わったら、たっぷり水を与える。



⑦バケツやジョウロ、掃除用のほうきなど。



植え付けにご参加いただいた、UR都市機構千葉支社、習志野台団地自治会の皆さんと講師の先生

2. 花育事業実施（第2回花育ワークショップ）

日時：平成26年2月23日13：30～15：00「土と肥料の話」講習会

場所：団地内の集会所

12月に植え付けをしたビオラも順調に生長をしている。花壇作りの要となる「土」や花壇の植栽についての勉強会を行った。

①講師の望田先生による「土と肥料の話」講習会。

- ・園芸用土の基礎知識
- ・土と植物の関係
- ・用土の種類
- ・鉢土の再生法 など



②講習会には、自治会の方をはじめ花愛好会の多くの方々の参加があり、植物の管理方法などの質問が寄せられた。



③講師の山口先生による寄せ植えの植物の選び方や色合せのテクニックのワンポイントレッスン。

- ・植物の名前と原産地を知る
- ・植物の性質を知る



<花壇の植え付け後の生長の様子>



平成25年12月14日の花壇



花壇のプレート



植え付け後約3ヵ月後の花壇



ビオラが大きくなり、チューリップが咲きはじめた。

小学校 生活科1年生 「アサガオで押し花を作ってプレゼントしよう」

作成者：学校法人清明学園 初等部 教諭 酒井隆光

- 対象者・人数：小学校第1学年 40名
- 所要時間：1時間30分から2時間（実作業70分）
- 対象場所：教室
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント2名
- 資材

<押し花作り>

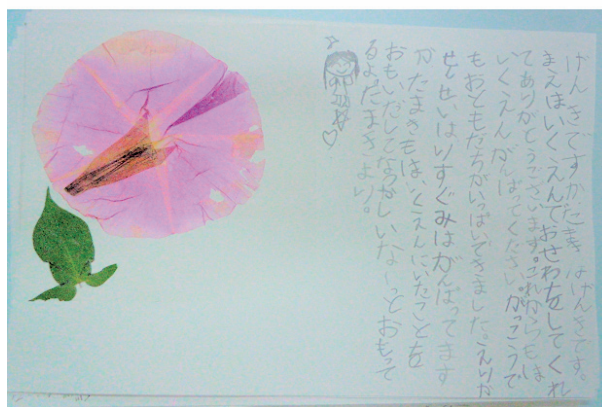
- ・押し花用資材
（押し花用吸水ボード、半紙（1人1枚））
- ・乾燥剤
- ・密閉容器（プラスチック）
- ・サンドペーパー
- ・ベビーパウダー
- ・ハサミ

<押し花のカード、しおり作り>

- ・画用紙（A4サイズ1人1枚程度）
- ・ラミネーター（複数台）
- ・ラミネートフィルム
- ・製本用フィルム（透明フィルム）
- ・リボン
- ・穴あけパンチ
- ・ボンド

■ 花材

- ・鉢植えのアサガオ
（花は1人あたり2～3輪、小さめの葉を2,3枚）
- ・予備アサガオ苗
（開花しているアサガオが足りない時に使用する）



押し花を使った手紙



押し花のしおり

【指導内容と目的】

- アサガオの押し花作りを通して、花の美しさや植物の特徴を知るとともに、短期間で失われやすい植物の美しさを長期にわたって観賞できる押し花のよさに気付くことができる。
 - ・栽培活動で育てたアサガオの苗から押し花作りに適当な花や葉を採り、指導者に手順を教わりながら押し花を作る。
- アサガオの押し花をしおりや手紙にデザインして楽しんだり、できあがった手紙を親しい人に送ったりすることで、押し花の活用のアイデアを広げることができる。
 - ・押し花にしたアサガオを用紙にレイアウトしてしおりを作り、押し花のよさに気付く。
 - ・押し花を使った手紙を作り、親しい人にメッセージを書く。
- 子どもが自分で育てたアサガオを押し花にすることで、植物への愛着を高める。
 - ・アサガオの押し花作りを通して、一つ一つの花や葉の違いがあることや、1本の苗から多くの花を咲かせるアサガオの生命力などの気付きを友達と共有する。
- アサガオの押し花作りから、さまざまな植物の押し花作りに挑戦し、植物の多様さへの気付きや、植物や栽培活動へのさらなる興味・関心の高まりへとつなげたい。
 - ・校庭や学校の周辺など、身の回りのさまざま植物の押し花作り、作品作りへと興味を広げていく。

【対象者への配慮】

- ・実際の作業時間は、小学校の授業時間（45分前後）に合わせる。
- ・説明はゆっくりと大きな声で平易な言葉で行う。
- ・アサガオの押し花の作品例を示すと子どもがイメージしやすく、活動への意欲が高まる。
- ・アサガオは花卉が薄く、破れやすい。花に直接接触するには十分に気を付ける。
- ・花が破れたり咲かなかったりした子のために、開花した苗を複数用意しておく。
- ・出来上がった作品については特徴をよさとして認め、満足感を得られるようにする。
- ・発達の段階を考えると、子どもは最初の押し花は自分のものにしたいと考えるので、「マイしおり」にする。2つめの押し花を使って手紙やはがきを作るようにする。

■ 1.指導計画・スケジュール

時数	学習内容	留意点
1	<p>【事前指導】</p> <p>○押し花作りへの期待感をもつ。</p> <p>○アサガオの花を使った遊び方を話し合う。</p> <p>「色水遊びをしたいな。」</p> <p>「押し花にしたら、花がきれいなままとっておけるよ。」</p> <p>「押し花を使って、しおりや手紙が作れるよ。」</p>	<p>◇子どもの発想を大切に、アサガオを使ったいろいろな遊びがあることに気付かせる。</p> <p>◇押し花の例を示し、押し花のよさに気付かせ、活動への期待感を持たせる。</p>
2	<p>○アサガオの押し花を作る。</p> <p>・自分の育てたアサガオの花を採り、作り方を教わって押し花を作る。</p> <p>・押し花にするアサガオの花と葉を選ぶ。</p> <p>「大きい花がいいな。」</p> <p>「小さい葉っぱにしよう。」</p> <p>・軸や葉をサンドペーパーで傷をつけ、水分が抜けやすくする。</p> <p>「葉っぱから水が出てきたよ。」</p> <p>・花や葉を半紙にはさみ、乾燥させる。</p> <p>「ベビーパウダーはどれぐらいかけるんだろう？」</p> <p>○次時にできあがった押し花を使ってしおりや手紙作りの計画を立てる。</p> <p>「おじいちゃんに手紙を書きたい。」</p> <p>「幼稚園の先生に送ろうかな。」</p>	<p>◇押し花の作り方や必要な道具や材料を子どもに分かりやすく示す。</p> <p>◇子どもが作り方の説明を聞いていることを確認しながら進める。</p> <p>◇作業手順が正しくできているか、机間指導をしながら確認する。</p> <p>◇作業が終わったら次時の見通しがもてるように、押し花の使い方を話し合わせる。</p>
3	<p>○押し花の「マイしおり」を作る。</p> <p>○押し花の手紙を作って、親しい人に手紙を書く。</p> <p>○他の植物を使った押し花の作品作りを考える。</p>	<p>◇しおり作りには、ラミネートフィルムとラミネーターを使う。</p> <p>◇押し花を製本フィルム（透明フィルム）で台紙に張る際は静電気が起きやすいので大人の支援が必要。</p> <p>◇他の植物の押し花の作品を示し、多様な植物での作品作りに期待感を持たせる。</p>

■ 2.事前の打ち合わせ

- ・押し花にするアサガオの花の開花状況の確認
- ・開花しない場合のアサガオの花の確保
- ・押し花の作り方とできた押し花の保存の仕方の確認

■ 3.当日の流れ

〈押し花を押し〉

①準備

- ・押し花を作るため道具を準備する
(専用の押し花吸水ボード、半紙など)

②挨拶 講師自己紹介

- ・本時のめあてを伝える。
- ・今日の押し花の作業の内容を説明する。
- ・押し花を使ったしおりやはがきなどを示し、
作品のイメージを持たせる



③半紙に名前を書く

- ・アサガオをはさむ半紙には、二つに折った裏側に名前を記入する。

④押し花作りの作業

- ・アサガオの花と葉をつるからとり、表面に雨の後や朝露などの水分がついていたらティッシュで拭き取る。
- ・軸からおしべとめしべを抜き取る。
- ・サンドペーパーに軸をはさみ、軽くこすって傷をつける。

- ・アサガオの葉をサンドペーパーにはさみ、軸と同様に軽くこすって傷をつける。



- ・ベビーパウダーを半紙に薄くまいて、アサガオの花と軸、葉を載せる。
(アサガオの花びらは薄く、乾燥すると半紙に付きやすいので、ベビーパウダーをつけるとはがれやすい)

- ・花と葉と軸が重ならないように配置し、その上から薄くベビーパウダーをかけ、半紙を閉じる。
- ・同じことを繰り返し、一人当たり2、3輪の花を押し花にする。

⑤乾燥させる

- ・専用の押し花吸水ボードにはさみ、ジッパー付きの袋や密閉容器などに入れて保管し乾燥させるときれいに出来上がる。(2日ほど乾燥させればできあがる。)

〈押し花を使った作品作り〉

①準備

- ・作った押し花（半紙にはさんだ状態）を各自に配り、机の上に準備する。
- ・しおりの用紙（アサガオの花がデザインできる程度の細長い紙）、
- ・ラミネートフィルム
- ・ラミネーター
- ・手紙の用紙（A4程度・画用紙がよい）を用意する。
- ・アサガオの花、軸、葉と同じ程度の大きさに切ったラミネートフィルムを用意する。

②挨拶 講師自己紹介

- ・本時のめあてを伝え、作業の内容を説明する。
(しおりの用紙、手紙の用紙、製本フィルムの数などを確かめる。)
- ・自分の押し花を使って、どのようなデザインの作品にするのかをイメージする。
(作品例を示すとわかりやすい。)

③押し花の完成を確認する。

④「マイしおり」を作る。

- ・アサガオの花は薄く破れやすいので、一度決めたらあまり動かさないようにする。
- ・動かないように、少量ののりで花と軸、葉を台紙につけ、名前を書く。
- ・ラミネートフィルムにはさみ、ラミネーターで固定する。
- ・穴あけパンチであけた穴にリボンをつける。

⑤手紙を作る。

- ・手紙の台紙に花や葉の配置を考えてデザインし、のりで台紙につける。
- ・押し花の花、軸、葉の上から製本フィルムを貼る。
(静電気が起こりやすく、繊細な作業になるので、大人が支援する方がよい。)

⑥台紙の空いているスペースに手紙で伝えたいメッセージを書く。

- ・製本フィルムの上からは鉛筆書きができないので、製本フィルムをはる際に、メッセージを書くスペースを十分に空けておく。

⑦メッセージが書けたら挨拶をして終了。

小学校 生活科1、2年生 地域とのつながりをもって 「ひろげよう、とどけよう わたしのおくりもの」

作成者：東京都府中市立府中第十小学校 教諭 鳥居恵子

【小学校生活科授業での実践事例の活用】

1年「ぐんぐんそだて」

2年『大きくなあれ、ひろがれ、ぼく・わたしのおくりもの』

<教育現場での花育と地域への発信>

花育実践者が、授業の流れのいくつかの場面に参画する場合、教育の趣旨を理解し、見通しをもって実践していただく一助になればと、指導案を基に参画場面を想定してみました。

教育実践には、常にビジョンがありその時々のおねらいがあります。

この実践の形に、「子どもの豊かな成長を願う精神」を吹き込んで実践して頂けたら幸いです。



生活科「フラワーアレンジ」授業風景

<紹介する2つの実践>

- 上級生から下級生へ「タネで命をつなぎ、植物（命）を育む思いをつなぐ」
- 学校が「地域の人材とともに、植物を育てる」ことを通して子どもを育て、豊かな生き方を地域へ発信していくと言う教育実践者の思いが込められています。

*学校又は長期間学校とかかわって実践される方には、指導案全文を参考資料として記載しましたので、ご活用ください。

■ 対象者・人数：小学校低学年 クラス単位または学年単位

■ 所要時間：45分の1単位時間及び放課後（全体の指導計画17から20単位時間のうち）

■ 対象場所：教室、実践校の校門前、

■ 指導者：1名（花育実践者、担任等）でもよい。

ゲストティーチャー（花育アドバイザー、地域人材）等数名の支援があれば望ましい。

【事例1】 1年生の実践「ぐんぐんそだて」

1.ねらいと教師の願い

- ・植物に愛着と関心をもって、工夫して最後まで大切に育てることが出来る。
- ・植物の変化と成長、命をもっていることに気づき、楽しみや喜びをもって育てることが出来る。
- ・植物を育てることを通して、友達、異年齢児童、幼児、地域の人等たくさんの人と触れ合い、喜びを伝えあったり、学び合ったりすることを体験する。

2.活動内容

- ① 2年生から昨年育てたアサガオの種をプレゼントしてもらい、大切に育てたいという意欲を高める。
- ② アサガオ集会などを開き、2年生や専門家に教えてもらい、育てる事への関心を高める
- ③ ペットボトルでマイジョーロを作ったり、自分のアサガオに名前を付けて、愛着を深めたりする。
- ④ 間引きしたアサガオをどうしたいか、話し合ったり、どの様に処理できるか専門家に教わったりして、入学時お世話になった6年生や園児、地域の人々への朝顔の苗をプレゼントする。



アサガオの種から芽が出た



お世話になった保育園にお手紙を読んで、アサガオをプレゼント



学校の前で、苗をプレゼント

- ⑤ 咲いたアサガオを思い出に残すために、押し花を作り、しおりやカードにする。



押し花で作ったしおり



大きく生長したアサガオ

- ⑥ 来年の1年生に種のプレゼントをするための袋作りをし、種を保存する。

3.花育実践者の参画

このような学習活動の流れの中で、②、④、⑤の授業場面に、学校関係者ではない、専門的知識や技術を持った花育実践者の参画を現場は求めている。

- ②の場合……………アサガオの育て方の紙芝居やパネルで、ポイントが印象に残る話をする。
- ④の場合……………間引きした苗を「花の苗」と言う意識でプレゼントとして仕立てる指導が期待される。
- ⑤の場合……………花育副読本「おしばな」を活用した指導が出来る。

【事例2】 2年生の実践「大きくなれ、ひろがれ、ぼく・わたしのおくりもの」

1.ねらいと教師の願い

- ・植物に愛着と関心をもって、継続的に世話をすることが出来る。
- ・植物の変化と成長、収穫の喜び、命のつながりに気付き、楽しみや親しみをもつことが出来る。
- ・植物を育てることを通して、たくさんの人と触れ合い、地域の自然や、地域の良さにも気付き、喜びや感動を伝え合ったりすることを体験する。

2.活動内容

- ①地域の散歩などを通して、春一番に育てたい植物を選び、種から育てる事への意欲を高める。
- ②苗床の用意や、自分の選んだ植物を育てるにふさわしい鉢を準備する。
- ③ペットボトルでマイジョーロを作り、毎日継続して世話をする自覚をもてるようにする。
- ④たくさん育った苗をお世話になっている地域の人にプレゼントするイベントを計画し準備をして実施する。



最寄りの多磨駅の方にプレゼント



地域の消防署の方にプレゼント

- ⑤町会や自治会の方々、保護者をお願いして、チラシの配布や、ポスターを貼る場所への協力をしていただく。
- ⑥収穫した植物で作品（押し花カード、しおり、リース等）を作り、遠くの人（祖父母、被災地の学校、その他かわりのあった人々）へも送り、育てた喜び、収穫の喜びを発信する。



3.花育実践者の参画

このような学習活動の流れの中で、②、④、⑥の授業場面に、学校関係者ではない、専門的知識や技術を持った花育実践者の参画を現場は求めている。

- ②④セットで、日にちを置いての授業参画が望ましい。

「花育読本・種から育てる花壇苗作り」（当協議会平成26年3月発行）を活用し、2回指導の機会を設けると良い。

<その1> 苗床作り、その後の手入れの指導（1～2単位時間）

（苗が、育ったころ、もう1時間設定する）

<その2> プレゼントになる苗の見極めや鉢上げ指導（1単位時間）

- ⑥の場合………育てた植物が、複数で作りたいものも複数であることが多いので、小学校低学年用の「花育副読本」を活用し、出来れば複数の花育実践者が指導に入ると理想的。

*毎日休まず続いている教育活動に、変化と新鮮さをもたらす貴重な機会として、学校現場は外部指導者の導入に積極的です。特に生活科や総合的な学習の時間では、「本物に出会う機会」を特に大切にしているので専門家をお招きすることが多くなります。

その一方、授業の流れを十分にお伝えして、担任と同じ側に立ってご指導いただくことの難しさも存在します。このセクションが、花育実践者にとって少しでも学校教育の中での花育の位置や趣旨をご理解いただいて、授業に参画していただくための一助となることを願っています。

第1学年 生活科学学習活動案

東京都府中市立府中第十小学校 授業者 鳥居 恵子

1. 単元名 「ぐんぐんそだて」

2. 単元のねらい

- 植物に関心をもち、成長を楽しみにしながら大切にそだてようとする。
- 植物の変化や成長に合わせて適切な世話をしたり、変化や成長の様子を自分なりの方法で表したりすることができる。
- 植物の変化や成長の様子などに気付くことができる。

3. 単元の設定期由と児童の実態

本単元は、学習指導要領（7）の「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定したものである。

本クラスの児童は、植物や生き物が大好きで、登校中に見つけたものを学校に持ってきては、みんなで見合いっこをしたり、教室で育てたりしている。4月のアサガオ集会では、2年生からアサガオの育て方を教えてもらったり、種をプレゼントしてもらったりして、アサガオを育てることを楽しみにしている姿が見られた。「芽がでてくるかな。」「大きく育つかな。」などの不安も口にしながらも、これからの成長を楽しみに、ワクワクした様子で種まきをし、お世話してきた。だが、毎日アサガオの様子を見に行ったり、忘れずに水やりをしたりしている子がいる一方で、継続して世話をすることが難しい児童もいた。アサガオは命をもっていることや成長していることに気付かせながら、大切に育てていけるよう、学習に取り組ませていきたい。

4. 「楽しい学習、確かな学び～児童の見取りから～」

- 一人ひとりの学習を保障する
 - ・一人一鉢でアサガオを育てる。
 - ・自分のアサガオに名前をつけたり、ペットボトルで自分のじょうろを作ったりすることで、さらに愛着をもって世話できるようにする。
- 継続して世話する
 - ・日常的にアサガオの観察や世話をできるように声かけをする。
 - ・アサガオの成長の様子で気付いたことや嬉しかったことなどを書いたり話したりする場を設定する。
- 子ども同士で伝え合う

- ・「きれいな花がさいてほしい」「大きくなってほしい」などの願いをもって育て、見つけたことや気付いたことを、子ども同士で伝え合いながら世話ができるようにする。

5. 教師の願い

- 自分のアサガオに愛着をもって、最後まで大切に育ててほしい。
- アサガオが成長するために、どんな世話をしたらいいか考えて活動してほしい。
- アサガオの変化や成長の様子を、観察カードに自分なりに表し、みんなで成長の喜びを分かちあうようにさせたい。
- アサガオの世話や観察を通して、生命をもっていることや成長していることに気付いてほしい。
- 本単元を通して植物を育てる喜びを味わい、大切にしようとする気持ちをもってほしい。


6. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの成長を願い、意欲的に世話をしようとしている。 ・アサガオの変化や成長に、関心をもっている。 ・アサガオに愛着をもって、かかわろうとしている。
思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの観察を通して、適切な世話をすることができる。 ・アサガオの世話や観察を通して見つけた変化や成長の様子を、絵や文などで自分なりに表すことができる。
気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオを育てるために必要な世話があることに気付く。 ・アサガオの世話や観察を通して、アサガオも自分と同じように生命をもっていることに気付く。

7. 指導計画（17時間）

	学習活動	◎支援 ☆評価
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> そだてよう！ぼく・わたしのはな </div> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭の草花を見に行く。 ○いろいろな種あてクイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いろいろな草花があることに気付かせる。 ◎種にはいろいろな形や大きさがあることに気付かせる。 (フウセンカズラ・ヒマワリ・アサガオ ホウセンカ・マリーゴールド)

	<p>○アサガオ集会で、2年生からアサガオの育て方について教えてもらい、種をプレゼントしてもらう。</p>	<p>◎2年生から、去年大切に育ててきたアサガオの種をプレゼントしてもらうことで、より一層大切に育てたい気持ちが高まるようにする。</p> <p>☆アサガオを育てることに関心をもっている。</p>
<p>9</p>	<div data-bbox="269 450 751 557" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ぐんぐんそだて！ ぼく・わたしのはな</p> </div> <p>○土作りをし、アサガオや他の植物の種まきをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一鉢ずつ、アサガオの種まきをする。 ・畑に種あてクイズで見た種をまく。 <p>○アサガオの成長の様子を観察し、世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルに絵や模様を描いて、自分のじょうろを作る。 ・アサガオに名前をつける。 ・芽が出た。 ・本葉が出てきた。 ・間引きする。 ・つるがのびてきた。 ・つぼみができた。 ・花が咲いた。 ・花で遊ぶ。 ・種ができた。 <p>(種取りをする)</p> <div data-bbox="272 1805 576 2018" style="text-align: center;"> </div>	<p>◎アサガオ集会で教えてもらった種の植え方の絵を見せる。</p> <p>◎土いじりが苦手な子には、一緒にやるようにする。</p> <p>☆アサガオの成長を願い、種まきをすることができる。</p> <p>◎自分のアサガオに愛着をもたせる。</p> <p>◎日常的に世話をしたり、成長の様子を観察したりするよう、声かけしていく。</p> <p>◎間引きしたアサガオを、お世話になった保育園や幼稚園、また地域の人たちにプレゼントできるようにする。</p> <p>◎水やりや支柱の立て方等について、考えさせるようにする。</p> <p>◎朝の会や帰りの会を活用して、子どもたちの気付きを広げていったり、成長の喜びを共有したりできるようにする。</p> <p>◎夏休み中の観察やお世話について、保護者に協力を呼びかける。(学年だよりなど)</p> <p>☆アサガオの変化や成長の様子を、絵や文などで自分なりに表すことができる。</p> <p>☆水やりや支柱立てなどの世話が必要であることに気付いている。</p> <p>☆継続して、意欲的にアサガオの適切な世話をしている。</p> <p>☆アサガオが大きく成長していることに気付いている。</p>

<p>4</p>	<p>アサガオのおもいでをつたえよう</p> <p>○アサガオを育てて嬉しかったことや発見したことなどを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>はっぱのかたちがちがっていて、びっくりしました。</p> </div>  <p>○2年生にアサガオの思い出を伝える準備をする。 (本時)</p> <p>○「アサガオのおもいで」をグループで発表し合い、練習する。</p> <p>○「アサガオのおもいで」を2年生に伝える。</p>	<p>◎写真や押し花、観察カードを掲示して、今までのアサガオの成長を思い出させる。</p> <p>◎2年生からもらった手紙を読み、2年生に伝えたい気持ちをもたせる。</p> <p>◎嬉しかったことや発見したこと、楽しかったことを伝える方法を例示する。</p> <p>◎自分の伝えたいことを、自信をもって発表できるように支援する。</p> <p>☆アサガオを育ててきて嬉しかったことや発見したことなどを、絵や文に表したり、発表したりすることができる。</p>
<p>1</p>	<p>わすれないよ、アサガオさん！</p> <p>○来年の1年生への種のプレゼント袋をつくる。</p>	<p>◎たくさんとれたアサガオの花の種をどうするか考えさせる。</p>

8. 本時の活動 (14 / 17)

(1) 本時の目標

- ・アサガオを育ててきて、嬉しかったことや発見したことなどを振り返り、絵や文などに表すことができる

(2) 本時の展開

主な学習活動	支援 (◎) 評価 (☆)
<p>○本時の活動の内容を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオを育ててきて、嬉しかったことや発見したこと、楽しかったことを発表する。 	<p>◎前時の学習を思い出させる。</p>

「アサガオのおもいで」をつたえよう

○「アサガオのおもいで」を2年生に伝える準備をする。

ピンクやむらさきのはながさいてうれしかったです



はっぱにけがはえていたよ



きれいな花がさいたから、おしぼみにしたよ。



つぼみができて、うれしかったなあ



○できたところまで、紹介する。

○次時のことを伝える。

◎「アサガオのおもいで」を伝える方法を例示する。

(絵・手紙・文・押し花など)

◎自分のやりたい方法を選ばせるようにする。

◎どんな方法で伝えたいか決められない子には、個別に支援する。

◎2年生によく分かるように表現できるよう、声かけする。

☆アサガオを育ててきて嬉しかったことなどを、自分なりに絵や文などに表している。





◎アサガオの思い出を共有する。

実践事例

(1) 本時の目標

- ・種から育てたいろいろな苗を地域に配り、身近な人とのかかわりを深める。

(2) 本時の展開

主な学習活動	支援 (◎) 評価 (☆)
<p>○本時の活動の内容を確かめる。</p> <p>・育ててきたアサガオ、百日草、フウセンカズラ等の苗を、身近な人に配り、「地域に緑を増やしたい」という願いを伝える。</p>	<p>◎前時までの活動をふり返る。</p>
<p>「みどりをふやそう」を呼びかけよう</p>	
<p>○校門で、地域の人に育ててきた苗を配る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>アサガオの苗はいりませんかー。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ポスターを見て、もらいにきたよ。</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>わたしたちが種から育てたアサガオです。育ててください。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ありがとう。大きくなったら、写真に撮って、もってくるね。</p>  </div> </div> <p>○あと片付けをする。</p>	<p>◎活動がわかるように、大きな看板を書いて、はるようにする。</p> <p>◎大きな声で、よびかけをするようにする。</p> <p>◎言葉づかいや、態度に気をつけるようにする。</p> <p>◎自分たちの思いを、伝えさせる。(大事に育ててほしい、緑を増やしてほしい等。)</p> <p>☆進んでよびかけをし、自分の思いや願いを言葉や態度で伝えている。</p> <p>☆地域とかかわりをもって、生活していることに気付く。</p> <p>◎残った苗は、プランターに植えるようにする。</p>
<p>○よびかけの活動をふり返り、絵や文に表す</p> <p>○配ったアサガオの生長に、関心をもつ。</p>	<p>☆アサガオを育ててきて嬉しかったことなどを、自分なりに絵や文などに表している。</p> <p>◎見に行ったり、話を聞きに行ったりするようにする。</p>

第2学年 生活科学習活動案

東京都府中市立府中第十小学校 鳥居 恵子

「生き生きと学び合う子どもの育成」

～豊かな体験・探究的な学習を通して～

1. 単元名 「大きくなあれ、ひろがれ、ぼく・わたしのおくりもの」

2. 単元のねらい

- 植物を育てることに興味をもち、継続してかかわりをもつことができる。
- 植物の生長の様子を観察する活動を通して、世話をする楽しさや収穫の喜びを味わったり親しみを感じたりする。
- 自分たちが住む地域の自然に興味をもち、地域の人とかかわることの楽しさや地域よさに気づき、町に愛着をもつことができる。

3. 単元の設定理由と児童の実態

本単元は、学習指導要領（7）の「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」また、新指導要領で新設された（8）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定したものである。

本校では、ここ数年、お世話になった地域の方に間引きしたアサガオの苗を配布する活動を行っている。本クラスの児童は、1年生の時に、生活の時間に正門前で、地域やお世話になった方へ、アサガオの苗を配る活動を行った。2年生になり、4月に1年生にアサガオ集会で、アサガオの育て方を教えてあげたり、種をプレゼントしてあげたりした。2年生は、毎年ミニトマトを一人一鉢、苗から育てている。水をあげながら、「黄色い花がさいたよ」「いつトマトができるのかな?」「大きく育つかな?」等喜びや不安を口にしながら、これからの生長を楽しみにしている。また、本校は、今年全面改築工事が行われるため、畑での野菜の収穫ができない。そこで、畑の一部に自分たちが育てたい花の種まきをし、世話をする活動にすることにした。毎日ミニトマトやまいた種の様子を見に行ったり水やりをしたりしながら、植物は、命をもっていることや生長していることに気付かせ、学習に取り組めるようにさせたい。そして、お世話になっている地域の方等を招き、種から育てた苗のプレゼントや花壇の花を押し花のしおりをプレゼントをする活動を取り入れ、植物に親しみ、満足感や成就感を得られる活動につなげていきたい。

4. 「生き生きと学び合う子どもの育成」

～豊かな体験・探究的な学習を通して～

○一人ひとりの学習を保障する

- ・一人一鉢でミニトマトを育てたりいろいろな種をまいたりする。
- ・ミニトマトに名前をつけたり、ペットボトルで my じょうろを作ったりすることで、愛着をもって世話ができるようにする。
- ・学区内の町探検を指導計画の中に入れ、身近な自然との触れ合いの場を設定する。

○継続して世話する

- ・日常的に植物の観察や世話をできるように教室にコーナーを設置したり日照条件や水やりがしやすい場所に鉢を置いたりして、育てやすい場所を保障する。
- ・植物が生長する様子で気付いたことや嬉しかったことなどを書いたり話したりする場を設定する。
- ・種が大きく生長し、満足感や成就感が得られるように、生長過程に「花の名人」を招き、育てるコツが分かったり喜びがもてたりできるようにする。

○伝え合う

- ・「きれいな花がさいてほしい」「大きくなってほしい」などの願いをもって育て、見つけたことや気付いたことを、子ども同士で伝え合う活動を取り入れる。
- ・お世話になった地域の方等を招き、育てた苗や押し花をプレゼントして、地域の人とかかわり、自分たちが住んでいる町に愛着がもてるようにする。

5. 教師の願い

- 植物を育てる活動を通して、世話をする楽しさや収穫の喜びを味わい、植物を大切にしようとする気持ちをもってほしい。
- 植物の世話や観察を通して、生命をもっていることや生長していることに気付いてほしい。
- 植物の変化や生長の様子を、生活カードに自分の思いや気付いたことを表現し、友達と交流する中で、生長の喜びを共有するようにさせたい。
- 本単元を通して地域の方等と触れ合い、自分たちが住んでいる町に親しみ、愛着がもてるようにさせたい。
- 一人一人が作った押し花のしおりを被災地の人達に届けることで、自分達の思いや願いが叶えられる嬉しさを感じさせたい。


6. 単元の評価規準

<p>関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生長を願い、意欲的に世話をしようとしている。 ・植物の変化や生長に、関心をもっている。 ・地域の自然や人に愛着をもって、かかわろうとしている。
<p>思考・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の変化や生長に合わせた、適切な世話をすることができる。 ・植物の世話や観察、（町探検）を通して、見たことや発見したことなどの様子を絵や文、クイズ等いろいろな方法で、表現することができる。
<p>気付き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽や結実など、育てている植物の変化や生長の様子に気付く。 ・植物の世話や観察を通して、植物も自分と同じように生命をもっていることに気付く。 ・住んでいる町に愛着のある場所が増えたり人とかかわって生活すると楽しいことに気付く。

7. 指導計画（20時間）

	学習活動	◎支援 ☆評価
3	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>のこそう！すてきな花</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭の草花を見に行く。 ○咲き終わるパンジーの花を押し花に、残しておこう。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの押し花の仕方を思い出す。 ・誰かにプレゼントしたいな。 ○いろいろな花を咲かせよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな種あてクイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いろいろな草花があることに気付かせる。 ◎1年生の時のアサガオの押し花のやり方を思い出させる。 ☆押し花の仕方が分かり、取り組んでいる。 ◎種にはいろいろな形や大きさがあることに気付かせる。 （ヒマワリ・ホウセンカ・ヒャクニチソウ・サルビア・エゾギク・マツバボタン・フウセンカズラ・アサガオ・オジギソウ）

	<p>○いろいろな花を育てよう。</p>	<p>◎いろいろな花を育ててみたいという気持ちを大切にしながら、育てやすい花の種にするようにする。 ☆花を育てることに関心をもっている。</p>
<p>8</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぐんぐんそだて！ ぼく・わたしのおくりもの</p> </div> <p>○土作りをし、ミニトマトやいろいろな花の種まきをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一鉢ずつ、ミニトマトの苗を植えたり種まきをしたりする。 ・畑やプランターにも種をまく。 ・「種をうめよう」などの本の読み聞かせをする。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>● 自分達が住んでいる地域の様子を見に行こう</p> </div> <p>○植物の生長の様子を観察し、世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルに絵や模様を描いてマイじょうろを作る。 ・ミニトマトに名前を付ける。  <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形の芽が出てきた。 ・双葉と違う葉が出てきた。 ・風で倒れてしまった。 ・ミニトマトの花が咲いたよ。 	<p>◎種の大きさによって、まき方が違うことを袋に描いてある絵を見たり教えてもらったりしながらまかせる。</p> <p>☆植物の生長を願い、苗を植えたり種まきをしたりすることができる。</p> <p>☆自然や地域の人々とかかわりながら探検を楽しんでいる。</p> <p>◎観察しやすい場所に置き、自分の植物に愛着がもてるようにする。</p> <p>◎日常的に世話をしたり観察したりするように声かけをする。</p> <p>◎たくさん出てきた花の苗をどうするかを話し合い、喜んでくれる方にプレゼントするようにする。</p> <p>◎水やりや支柱の立て方等について考えさせる。</p> <p>◎朝の会や帰りの会等を活用して、子ども達の気付きを価値付けたり広げたりして、生長の喜びを共有できるようにする。</p> <p>◎地域の方やお世話になった方に招待状やポスターを作成し、自分達の思いを伝えさせる。</p> <p>☆植物の生長の様子を絵や文で生活カードに描くことができる。</p> <p>☆水やりや支柱を立てる世話が必要であることに気付いている。</p>






	<p>・赤く色がついてきたよ。</p> <p>○花の名人に聞いてみよう。 教えてもらおう。</p>	<p>☆継続して、植物に適切な世話をしている。</p> <p>◎種から花になるまでのことを名人を招き、話を聞いたりフラワーアレンジメントをしたりして、植物が好きになり、愛着をもってかかわることができるようになった自分に気付いている。</p>
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>つたえよう ひろがれぼく・わたしの花</p> </div> <p>○植物を育ててきて、発見したことやうれしかったことを思い出そう。</p> <p>○地域の方やお世話になった方に育てた思い出を伝える準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな方法で ・内容 ・仕事分担 <p style="text-align: right;">} 等</p> <p>○招待した方に発見したことや自分の思いを伝えよう。 (本時)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>種は、いろいろ あったよ。</p> </div> 	<p>◎生長の様子の写真や押し花、生活カード等を見ながら、今までの植物の様子を思い出し、何を伝えたいかを話し合いさせる。</p> <p>◎伝える方法を工夫させる。</p> <p>◎担任は、招待する人に事前に内諾をとり、都合を聞いておくようにする。</p> <p>◎役割分担や発表内容を明確にし、招待した方との触れ合いを楽しんでできるようにする。</p> <p>☆植物を育ててきて発見したことや自分の思いをいろいろな方法で伝えることができる。</p>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>わすれないよ、また来年！</p> </div> <p>○育てたミニトマトを収穫して味わう。</p> <p>○種取りをしよう。</p> <p>○収穫した喜びを残そう。</p>	<p>◎取れたミニトマトや花の種をどうするか考えさせる。</p>

8. 本時の活動 (18 / 20)

(1) 本時の目標

- ・植物を育ててきて、発見したことや自分が思ったことをいろいろな方法で表現し、伝えることができる。
- ・招待した方と楽しみながら、かかわることができる。

(2) 本時の展開





主な学習活動	支援 (◎) 評価 (☆)
<p>○本時の活動の内容を確かめる。</p> <p>*プログラムにそって始める。</p> <p>・はじめの言葉</p> 	<p>◎前時までの学習を思い出させる。</p>
<p>ひろげよう、とどけよう ぼく・わたしのおくりもの</p>	
<p>○植物を育ててきたことを振り返り、いろいろな方法で招待した方に伝え、広げていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をする内容を伝える。 ・植物を育ててきて、発見したことや思ったことなどを、いろいろな方法でグループで表現する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="156 1014 427 1249"> <p>ぼくたちは、葉っぱのクイズを出します</p>  </div> <div data-bbox="491 1014 762 1261"> <p>いろいろな種をまいたよ。小さな種から大きくなってうれしいです。</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="172 1283 443 1518"> <p>ミニトマトに黄色の花がさきました。</p>  </div> <div data-bbox="507 1283 778 1529"> <p>きれいな花を残しておきたいから押し花にしたよ。</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・育ててきた花の苗やしおりをプレゼントする。 ・歌をうたう。 ・おわりのことば <p>○今後のことを伝える。</p>	<p>◎それぞれのグループで考えた方法で伝えることができるようにする。</p> <p>◎伝えたい人によく分かるように表現の仕方を工夫するようにする。</p> <p>☆植物を育ててきて、発見したことや思ったことなど、伝えたいことを、表現することができる。</p> <p>☆招待した方とかかわることを楽しもうとしている。</p> <p>◎自分の役割が分かり、思いや願いを添えてプレゼントをしたり歌を歌ったりする。</p> <p>☆植物に親しんでかかわれるようになった自分に気付く。</p>

実践事例

(1) 本時の目標

- ・種から育てたいいろいろな花の苗を地域に配り、身近な人とのかかわりを深める。

(2) 本時の展開

主な学習活動	支援 (◎) 評価 (☆)
<p>○本時の活動の内容を確かめる。</p> <p>・育ててきたアサガオ・フウセンカズラ・ヒヤクニチソウ・コスモスなどの苗を、身近な人に配り、「地域に緑を増やしたい」という願いを伝える。</p>	<p>◎前時までの活動をふり返る。</p>
<p>「みどりをふやそう」を呼びかけよう</p>	
<p>○校門で、地域の人にアサガオなどの苗を配る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>アサガオの苗は いりませんかー。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ポスターを見て、 もらいにきたよ。</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>わたしたちが種から育てた アサガオです。育ててください。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ありがとう。大きくなったら、 写真に撮って、もってくるね。</p>  </div> </div> <p>○あと片付けをする。</p>	<p>◎活動がわかるように、大きな看板を書いて、はるようにする。</p> <p>◎大きな声で、よびかけをするようにする。</p> <p>◎言葉づかいや、態度に気をつけるようにする。</p> <p>◎自分たちの思いを、伝えさせる。(大事に育ててほしい、緑を増やしてほしい等。)</p> <p>☆進んでよびかけをし、自分の思いや願いを言葉や態度で伝えている。</p> <p>☆地域とかかわりをもって、生活していることに気付く。</p> <p>◎残った苗は、プランターに植えるようにする。</p>
<p>○よびかけの活動をふり返り、絵や文に表す</p> <p>○配った花の苗の生長に、関心をもつ。</p>	<p>☆種から育ててきて嬉しかったことなどを、自分なりに絵や文などに表している。</p> <p>◎見に行ったり、話を聞きに行ったりするようにする。</p>

地域施設での花育活動 「園芸で元気いっぱい」

作成者：グリーンアドバイザー 中道 光子

- 対象者・人数：10名程度
- 所要時間：45分
- 対象場所：介護老人保健施設マイウェイ四谷 地域交流スペース
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント1名
- 協力：介護老人保健施設マイウェイ四谷



■ 資材

- ・底面給水鉢 5号 1鉢
- ・培養土 0.5リットル
- ・肥料 少々
- ・土入れ 1個
- ・土を入れる容器 1個
(1人分ずつの土を分けておくための容器)
- ・水やり用ペットボトル (小) 1個

※底面給水鉢の説明はP.61参照



底面吸水鉢



水やり用ペットボトル・土入れ

■ 花材

- ・ビオラ 3.5号 1ポット
- ・スイートアリッサム 3.5号 1ポット



スイートアリッサム ビオラ

【指導内容と目的】

- ・自分が植えた花苗が生長して美しく花を咲かせることの楽しみ、喜びや花のある空間の美しさを感じてほしい。
- ・植物が美しく花を咲かせるには、日々の管理が大切で、水やりなど継続的な作業を行うことの責任感、持続性を身につけてほしい。
- ・花を育てる機会を通して仲間との会話を楽しみ、コミュニケーションを育む場とする。
- ・土や植物を触り、自然の暖かさ、力強さなど感じてほしい。
- ・季節の植物を通じて、四季折々の変化を感じ取ってほしい。

【対象者への配慮】**<安全面の配慮>**

- ・植物の中には、有害なものもあるので、植物、土など絶対口に入れない様に注意する。作業後は必ず手を洗うこと。
- ・ハサミを使用するときは、刃先が丸くなっているものを使用する。
手の力が無くハサミを使用することが困難な場合は、施設のスタッフやアシスタントが必ず付き添い補助をする。

<作業時の配慮>

- ・当日、施設管理者との打ち合わせを行い、参加者の体調や可能な作業を確認すること。
- ・耳が不自由な方には、耳元ではっきりとゆっくり話す。
- ・手の不自由な方には、イスに座る向き（右向きか左向きか）や位置などを確認してから作業に入る
- ・誤飲などが心配される方には、特に注意をはらい必ず施設のスタッフやアシスタントが付き添うこと。
- ・花や植物に興味を持ってもらえるように、全員に目配りして全員と会話をすること。
- ・出来上がった作品は、時間が許す限り一人一人の作品を見ながら良い点などを伝えること。

1.指導計画・スケジュール

<年間スケジュール案>

1月	室内での作業	底面給水の鉢に葉野菜の種を蒔き
2月		押し花で名札、コースター作り
3月		ジャガイモの植え付け
4月		コンテナに季節の花の植え付け
5月		夏野菜の植え付け（なす、トマト、ピーマン、オクラ等）
6月		フウセンカズラ、タデ藍の種まき
7月		ジャガイモの収穫、野菜の収穫
8月		藍の生葉染め
9月		コンテナに季節の花の植え替え
10月		芝ボーヤ作り
11月		クリスマスリース作り
12月		お正月の寄せ植え

※室内での作業とするが、春、秋など気候がよく、風のないとき等は、室外での作業にして外の空気を感ずるようにする。



底面給水の鉢



押し花で名札作り



押し花でコースター作り



じゃがいもの植え付け



季節の花の寄せ植え



藍の生葉染め



フウセンカズラの種まき



芝ボーヤ作り



クリスマスリース作り

2.事前の準備

- ・花苗のポットには、大きな字で花の名前を書く
(黒ポットなら白いマジックで書く)
- ・土は少し深めの容器に一人分ずつ入れる
- ・土入れを用意する
- ・机の上には大きめのトレーか、45ℓのゴミ袋を敷きその上で作業をする
(終了時にごみ袋ごと丸めると簡単に片づけることができる)



3.当日の流れ

- ・時 間 (所要時間) : 45分
- 12:30 集合 準備
- 13:30 自己紹介 (今日行う簡単な説明)
- 13:35 頭と手の体操
- 13:40 花苗、鉢などの説明をしてから植えつけ
- 14:00 出来上がった作品を一人一人観賞する (必ず一人一人に感想を話す)
- 14:15 終了
- 片づけ
- 反省会



・具体的な手順

- ①作業をする前に体を動かす準備体操として、手を開いたり閉じたりしながらジャンケンをする
ると手や頭の運動となる。これから作業を始めようという気持ちを高める。



- ②底面吸水鉢[※]は、上下分かれることを確認し、下の鉢から水を吸水することを確認する。
(垂れ下がっているヒモから水を吸水する)

※容器の底に貯めた水を吸水ひもで吸い上げ、
土に水を与える栽培方法。

通気性、保水性に優れ植物の生育に最適な環境
が作れる。水やりの回数も減り、水ぎれで
植物が枯死することが防ぎやすい。



- ③鉢の中に培養土を少し入れる

(ポットに花苗を入れて根鉢の上部が鉢のふちから2cm位下にくるところまで花苗の下に土
を入れる)



④パンジー、ビオラ等は、苗の根が伸びすぎて根鉢が真っ白になっていることがあるのでその場合は、白い根を取り除いてから植える。

パンジーやビオラは、丈夫な植物で根を切ったりしてもすぐ回復する。

1週間ぐらいで新しい根が発根する。



⑤根鉢の周りに土を入れる。

花や葉に土がかからない様に植物を手で寄せて土を入れる。

細い割り箸などで、周りの土をついて隅々まで入れる。

⑥上下をセットし、一番最初は上から水を与え下の鉢に水が出るのを確認する。

⑦下の鉢の窓から確かめながら、下の鉢にも水を入れる。

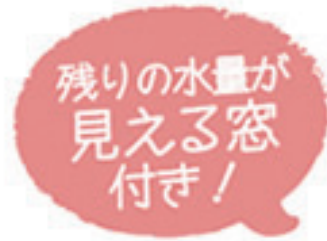
・指導ポイント

- ・必ずウォータースペースを考えて植える。
- ・パンジー、ビオラは根を崩してから植える方が良い。
- ・根鉢の周りに隙間なく土を入れる。
- ・底面給水鉢は、老廃物を洗い流すために、時々上から水を流れ出るくらい与える。

<底面吸水鉢の説明>

水やり減らして
おさぼり給水。

底面給水機能付きのインテリア用ミニポット。



植え込み部を持ち上げ、
水さしなどで貯水部に
水を注ぎます。



持ち上げやすい
植え込み用容器
片手で簡単に持ち上げる
ことができるので、給水
がラクにできます。

段付きスリット排水穴
通気性と排水性を高めます。

給水ヒモ
吸水性に優れているので
地表部までしっかり水が
行き渡ります。

貯水用容器

たっぷり水を溜めておく
ことができ、水やりの回
数を削減できます。

貯水量が見える窓付き

貯水部の残量が一目でわ
かります。常に見えるの
で給水し忘れ防止にも役
立ちます。

こんなに水やりがラクになります！

	通常水やり		底面給水鉢
ミニバラ	4日に1回	➡	14日に1回
ドラセナ	7日に1回	➡	28日に1回

おおよそ 1/3 ~ 1/4 の回数でOK!

※植物の種類や気温など生育条件によって異なります。

高校生が取り組む花のまちづくり

公益財団法人全国学校農場協会 常務理事
千葉県立鶴舞桜が丘高校 教諭 風間 龍夫

1 はじめに

全国の農業高校は、現在約380校あり、農業高校としての特性を活かし、さまざまな地域活動に取り組み、そのなかでも花いっぱい運動、花のまちづくり活動は多くの学校が取り組んでいる。農場協会の例年の調査では3割程度の学校が行っていると回答し、近年ではまだ少数であるが花育にも積極的に取り組む学校もある。農業高校における花いっぱい運動は、活動形態はさまざまであるが、学校で育てた花壇苗をプランター等に植えて近隣の商店街、駅、市役所、病院、小中学校等に飾ったり、地域の花壇植えを行っていることが多いようである。以下、千葉県立上総高等学校の事例を中心に、全国の農業高校の取り組みを数校紹介する。（注 農業高校は農業関係高校とも言い、農業単独校、普通科等の他学科との併置校、総合学科校からなる。）

2 千葉県立上総高等学校(君津市)の事例

活動の概要

本校は房総半島の中ほど君津市にあり、園芸科1クラス、普通科3クラスの学校である。花いっぱい運動は学習の成果を地域に働きかけ、農業高校生ならではの活動ということで始めたのがきっかけである。平成8年に君津市役所に鉢花を飾ったことから始まり、その後後輩へと代々引き継がれ活動を発展させてきた。なかでも、平成10年2月に、開通直後の東京湾アクアライン「海ほたる」を菜の花で飾ったところ、新聞各紙で「海ほたるは春まっさかり！」などと紹介され大きな反響を呼んだ。平成15年には千葉県で開催された全国植樹祭で上総高校は草花装飾に寄与し、植樹祭にご臨席された天皇、皇后両陛下がその帰路、「海ほたる」花壇をご覧になられるという栄誉にもあずかった。

活動は、自分たちで育てた花をプランターに植え、季節を通して、東京湾アクアライン「海ほたる」、君津市役所、君津中央病院、公民館、老人ホームなど多くの公共施設や地元の商店街な



東京湾アクアライン「海ほたる」(菜の花など春の花とクリスマスリースの飾りつけ)

どを飾っている。「海ほたる」を例に取れば、春はキンセンカ、パンジー、夏はニチニチソウ、秋はサルビアなどと季節の花を届けている。また、鉢植えのマスクメロンやアサガオのあんどん

仕立てを作ったり、12月はリースを飾り付けたクリスマスの装い、正月は門松で迎えるなど工夫をこらしている。また、「海ほたる」、君津市役所、君津中央病院など多くの場所で花壇作りも行っている。最近では木更津市国道脇や木更津駅などに市民団体と協力した花壇作りに力を入れ、君津市小糸公民館前並木道では地元小中学校、商店街、老人クラブ、行政機関など8団体と花壇作りを行っている。現在、地域には常時約500個のプランターを飾り、花壇は6箇所あり、年間プランター総計約2千個を飾り、花壇苗約2万本を植え付けている。君津市役所、「海ほたる」には年間20数回も花を届けている。

全国規模の花コンクールで2年連続日本一！その他、数々の受賞も

花いっぱい運動は園芸科生徒による農業クラブの自主的な活動として展開され、数々の全国的な賞を受賞している。

日本花いっぱい協会などが主催の全国花いっぱいコンクール（学校の部）において、平成15年度は文部科学大臣奨励賞、16年度は内閣総理大臣賞を受賞した。17年度は農林水産省、国土交通大臣省が提唱し、日本花の会などが主催する全国花のまちづくりコンクールにおいて最高位の花のまちづくり大賞、農林水産大臣賞を受賞した。高校生が自主的な活動として市民と協力し花のまちづくりに取り組み、地域のセンター的な役割を果たし、活動を通じて社会性や問題解決能力を養い人間的に成長した点が高く評価された。全国規模の花コンクールでは2年連続の日本一となった。18年度は「緑の都市賞」において都市緑化基金会長賞を受賞し、花と緑あふれる街づくりをとおして地域との連携を図り、活動が地域のコミュニケーションの醸成に寄与した取り組みであり、全国のモデルとなると評価された。19年度はいきいき活動奨励賞文部科学大臣奨励賞、20年度は全国「緑の愛護のつどい」国土交通大臣賞を受賞した。その他にも数々の受賞をし、多くの団体から感謝状を贈呈されている。新聞、テレビ、雑誌等に取り上げられることも多く、地域では花の上総高校としてすっかり定着している。

地域と共に取り組む花のまちづくり

活動は、当初の「地域を花で飾ろう」から、自分たちだけの活動では限界があり、「地域と共に取り組もう」、さらには、「地域全体に広げよう」と発展している。活動を広げるなか多くの市民団体と連携を深め、上総高校が花のまちづくりのセンター的な役割を担うことができればと考えている。



木更津駅タヌキ花壇



学校近くの公民館前花壇の植付け

木更津駅前花壇作りでは高校生が街の活性化に貢献したとの評価を受けたように、地域づくりにおける本校の果たす役割は高く、地域からの要請は増している。平成17年には学校近くの君津市公民館前並木道に長さ80mにわたる花壇作りを、本校が中心となり、小中学校や商店街、老人クラブ、行政機関など関係8団体とで行い、その後も活動を継続し、学校・地域・行政とで地域一体となった取り組みになっている。

花いっぱい運動を農業学習に取り入れて

本校の花いっぱい運動の特徴は、生徒がアイデアを出し合い工夫しながら農業学習として取り組んでいること、高校生が地域づくりに地域と連携して活動していることである。

活動は学習したことをもとに地域に働きかけ、地域と交流し、そのことによって地域から学ぶという循環の中で行われている。花いっぱい運動をテーマに課題を設定し改善、発展させながら取り組んでいる。

今まで取り組んだテーマは、例えば「プランターに適した草花の選定」（参考資料1）では、数多くの栽培した40種類以上の草花について花のきれいさだけでなく水やりや花がら取りの難易度、開花期間など、利用し楽しむ人の立場を考え評価しデータを蓄積している。

「商店街の花いっぱい運動活発化」では、街の人たちから花の管理方法がよくわからないという声があり、実際、花が日中にしおれるなど問題があり、花の管理方法を説明した「花いっぱい通信」を発行してアドバイスしたり、生徒の審査で花コンテストを行ったりして改善した。今では日中花がしおれることはほとんどなく花の手入れは見違えるようによくなった。



君津中央病院チューリップ花壇



「海ほたる」ハートマークのバレンタイン花壇

「花壇のデザイン研究」では、病院では患者さんが心とむようにと虹をイメージした花壇、市役所花壇では毎年1月、干支の花壇、アクアライン「海ほたる」では2月はハートマークでバレンタイン花壇など高校生ならではのアイデアに富んだ花壇づくりに取り組んだ。学校近くの公民館前花壇では、各団体がクジラ、アヒル、カエルなどキャラクター花壇に取り組んだ。木更津駅前花壇では、「證誠寺の狸ばやし」にちなみ月夜に踊り出すタヌキ花壇を作り大好評だった。

現在は「人にやさしい育てる花壇作り」というテーマで、地域の人たちに誰もが参加して継続的な花壇作りをしてもらい育てる楽しみを知ってもらおうと、簡単な植え付け方法や管理方法の改善について研究している。こうした研究の成果は農業高校の農業クラブ研究大会、自治体の催し等で発表している。

(参考資料1)

表－1 上総高校でプランター栽培した春用草花

	かん水	花がら取り	病虫害発生	草丈	開花期間	播種期	その他	総合評価
オステオスペルマム	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	B
ガザニア	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	B
キンギョソウ(矮性)	普	有	普	中	中	1月	花殻取りが必ず必要で手間がかかる	B
キンセンカ(矮性)	普	有	多	中	長	10月	アブラムシ、ウドシ病が発生しやすい	B
刈ササゲ・ムラサキ	少	無	少	低	長	9~10月	暗い場所では花が開かない	B
ストック(矮性)	普	無	普	中	中	9月	八重にするには八重鑑別が必要	B
デージー	普	有	普	低	長	7月	春になると旺盛に生育	A
ディモルホセカ	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	C
ナバナ(菜の花)	多	無	多	高	中	9月	倒伏しやすい。早生を利用するとよい	B
刈ササゲ・ノースポール	普	無	少	中	長	9~10月	花壇に植えると種が落ち翌年も生育	A
パンジー	普	有	普	低	長	7月~	花色多く、春の花の定番、秋から咲く	A
ネモフィラ	普	無	少	中	短	8月	花期が短い	B
プリムラ・マコデリス	普	無	普	中	長	6月	春を告げ卒業式には欠かせない	B
ポピー	普	有	普	中	長	9月	直根なのでプランターには本来不向き	B
鑑賞ムギ	多	無	少	高	長	11月	葉斑入り品種有り、観賞用	B
※観葉植物								
オリヅラン	少	無	少	中	※長	冬を除けば、いつでも挿し木可能	屋内で、日照条件の悪い場所に向く。管理容易で、緑の癒し効果があり、屋内インテリアとして貴重。繁殖も容易で、長期間鑑賞できる。	B
ピレア	少	無	少	中	※長			B
シンゴニウム	少	無	少	中	※長			B

※かん水量(多い、普通、少ない)、花がら取り(有り、無し)、病虫害発生(多い、普通、少ない)

草丈(高い、中間、低い)、開花期間(長い、中間、短い)、総合評価(A、B、C)

※プランター栽培に適した草花について研究したもので、花壇用だけでなくディスプレイ用として取り上げたものもある。プランターは用土の量が限られているので、花壇苗には適しているもプランター栽培に向かないものがある。プランター栽培ではかん水を的確に行う、花がら取りが必要なものは怠らないなどに気をつける。

表 - 2 上総高校でプランター栽培した夏・秋用草花

	かん水	花がら取り	病虫害発生	草丈	開花期間	播種期	その他	総合評価
アサガオ	多	有	普	高	長	4~5月	あんどん作りにして好評、季節の花	B
インパチェンス	多	無	少	低	長	4~5月	ニューギニアインパチェンスも有り、挿し木容易	B
キク（ポットマム）	多	無	多	低	短	4月	摘心要、開花期間が短いのが難	C
コリウス	多	無	少	高	※長	3月	半日陰でも可、暑さに強、鑑賞期間長	B
コスモス（矮性）	多	無	少	高	長	7月	倒伏しやすい、矮性品種選択	B
ケイトウ（矮性）	普	無	少	中	普	3月	強光で色あせする	B
サルビア	多	有	普	中	長	春2月 秋7月	夏に生育衰える、乾燥でダニが発生しやすい、秋の花の定番、春から開花 ブルーサルビア（ファリナセア）	A
シロタエギク	普	無	少	中	※中	2月	寄せ植えや花壇の縁取りに利用	B
千日紅（矮性）	少	無	少	低	中	3月	ドライフラワーにも利用、花が地味	B
ダリア（矮性）	普	有	多	中	短	1月	種まき用、鉢栽培を利用、ダニ発生	C
ニチニチソウ	多	無	普	中	長	5月	暑さに強い、一部病気発生	A
ヒマワリ（矮性）	多	無	少	高	短	5月	季節性あるが、開花期間短い	C
ポーチュラカ	少	無	普	低	長	5~6月	挿し木、暑さにも乾燥にも強い	A
ペチュニア	多	有	普	低	長	2月~	切り戻しで何回も再生、花が雨に弱い、雨に強いほふく性のマニア、クレーピアあり	A
アンゲロニア	少	無	少	低	長	2月	暑さに強健。寒さにも比較的強い。	A
マリーゴールド	普	有	多	中	長	2月~	夏に生育衰え、乾燥でダニ発生しやすい	A
ラベンダー	普	無	少	低	短	挿し木	小低木、香りあり、さし木でふやす	B
ヘレニウム	少	無	少	低	長	2月	暑さに強健。寒さにも比較的強い	A
メランポジウム	多	無	少	中	長	2月	かん水大変、花壇向き	C
ペゴニア・センパフローレンス	普	有	普	中	長	挿し木	3月、播種9月、切り戻し再生	B

※かん水量（多い、普通、少ない）、花がら取り（有り、無し）、病虫害発生（多い、普通、少ない）
草丈（高い、中間、低い）、開花期間（長い、中間、短い）、総合評価（A、B、C）

本校の花いっぱい運動は、学習したことが人のためになるということで、体験的学習の新しい取り組みであり、地域に貢献する学習活動でもある。地域に認められ、評価され、生徒の学習意欲の向上に大変効果的である。人とのふれあいをとおして共に生きることを学び、社会性・人間性の向上をめざして幅広い総合的な学習として行うことができる。



学校近くの公民館前花壇の手入れ



小学生とプランター作り

花づくりは 人づくり 街づくり 地域づくり



木更津駅「狸ばやし花壇」を中心に練り歩く夏祭り

平成17年度の全国花のまちづくりコンクールでの授賞式において審査委員長の琉球大学比嘉照夫教授から「上総高校の活動は社会的な財産である」との講評を受けたり、農文協発行の「農業教育」において、「上総高校の花いっぱい運動を中心とした一連の活動は、地域の園芸コーディネーターとして、地域の人びとのなかに園芸を楽しむライフスタイルの裾野を広げ、園芸文化の力を高める活動でもある。」と評されている。こうした評価に生徒ともども励まされ、「花づくりは 人づくり まちづくり」を合い言葉に、継続は力なりと、今後も息の長い地道な活動を続けていきたい考えである。

(記載は平成23年度まで千葉県立上総高校に在職した風間龍夫による。)

3 青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎(南津軽郡藤崎町)の事例

(記載 教諭 北畠 顕嗣)

活動の概要

本校舎（平成20年度より校舎化、旧藤崎園芸高校）はりんご科1クラスの学校であり、学校活性化推進のために、地元藤崎町と協力をして平成5年度より「花いっぱい運動」として、町内の官公庁、幼稚園、保育園、小中学校や町内花壇に花植え活動を行っており、地域の10個所におよそ6,000本（プランター500個含む）の草花苗を提供している。

地域の方々と一緒に花を植えるボランティア活動を通して地域の景観の美化を図る。また、日頃の学習の成果を生かして、町内地域との交流を深め、豊かな心を育み、自信と誇りを持つようすることを目的としている。この事業は、地域の方々と協力して、美しい藤崎町の景観を作り上げることや、保育園等で花の種類や特徴を教えることで、町・町民・本校生徒との結びつきを強めている。

活動で注意している点

実際の活動場所は、遠いところはバス・タクシー等の交通機関を利用しているが、数kmのところは、自転車や徒歩で対応しているため、事故等には注意している。

活動上の問題点

日常的な管理は、各施設管理者、各学校の子供達が行っているが、地区町内会の花壇については、箇所によって日常的な管理が不十分のため、花壇が雑草に覆われてしまったりすることがある。



保育園への植栽指導



地域住民と一緒に町内花壇の花植え

4 福島県立福島明成高校(福島市)の事例

(記載 教諭 佐久間智子)

活動の背景と目的

本校の生物生産科施設園芸コース草花専攻班では、草花生産に関する学習と、その草花を地域活性化に生かす学習に取り組んでいる。

平成23年3月11日におきた東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所事故問題から、本校のある福島市では放射能汚染の問題が深刻化した。福島市は吾妻連峰と阿武隈高地に囲まれ、盆地を利用した果樹栽培が盛んで、さらに全国から30万人を超える観光客が毎年訪れる花見山公園を中心に花の街づくりも目指す美しい地方都市であった。しかし震災後は市の人口や観光客入込数が大幅に減少し、花の街としての存続が危ぶまれた。

平成17年におきた阪神淡路大震災では、被災後に「園芸療法」(第1次世界大戦後イギリスから生まれた植物を用いた心のケアをおこなう療法)が復興に用いられ、日本でも注目され始めた。植物を用いて見事な復興を遂げた神戸市や淡路島を手本とし、草花を市内の多くの場所に設置することにより福島市を復興させたいという考えから、本校草花専攻班は平成24年から福島市の花による復興活動に取り組んでいる。

活動範囲

草花専攻班 活動内容			
生産・販売	地域緑化	校内緑化	仮設住宅
<ul style="list-style-type: none"> ○季節の草花の生産管理 ○カーネーションやシクラメン、寄せ植えの販売会 	<ul style="list-style-type: none"> ○福島駅前への花時計作成 ○高速道路ICでの花壇作り ○ガーデニング教室の開催 ○市内へ花のプランター設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校正面玄関前に植物オブジェ作成 ○植物オブジェの手入れ、校内花壇の植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮設住宅内へ花壇の設置、植栽 ○草花を取り入れたワークショップの実施 ○仮設住宅の方々との交流会



JR福島駅前の花時計



仮設住宅での花壇植栽

活動の特徴

活動への取り組み時間は、科目「総合実習」「課題研究」等の授業内の時間を主に使う他、放課後や休日を利用し実施している。授業内では生産計画に基づいた実習内容がメインとなり、花時計作成や市内へのプランター設置などは放課後等の時間を活用、仮設住宅でのワークショップの実施や花壇整備は休日を活用しての取り組みとなっている。花時計作成は2年専攻生、仮設住宅支援は3年生と役割を分担し、授業を有効的に活用する他、継続して活動できるよう後継者の育成を考えての展開である。



学校玄関に花のモニュメント作成



サザエさん花壇を花見山に作成

学習への効果

生産活動以外の校外活動を加えることにより生徒は地域の方々と話す機会を得られ、コミュニケーション能力を向上させることができる。活動当初は人と会話するのが苦手だった生徒も、3学年半ばを過ぎた頃になると積極的に地域の方々と話す姿が見受けられる。また花時計やワークショップなど、「自分たちでデザインを考える」「企画を練る」経験をすることにより、より主体的に活動に取り組むことができ、問題解決能力も養うことができる。校外での地域交流活動は生徒自身の良い学習機会となっている。

活動の注意点

交流活動は実施することにより良い結果を得ていることは体験できるが、化学実験のようにそれを数値化して証明することは難しい。また活動内容を評価し見直すことも困難である。実施後のアンケートや生徒の感想などから今までは評価や改善をおこなってきたが、より客観的に判断し見直すためにKJ法や生徒への心情変化テスト（POMS）に取り組ませながらの活動をおこなうよう留意している。そうすることにより、より結果が解りやすく、生徒も理解し易く改善しやすいという効果が得られている。

今後の課題

東日本大震災後から始まった本校草花専攻班の取り組みは、福島市が本当に復興を遂げるまで続ける必要がある。そのため今後活動を展開するために必要な後継者の育成と、多くの人がこの活動内容を理解し取り組むことができるよう活動マニュアルを作成することが今後の課題である。生徒たちにとって良い学習機会となるよう、活動が地域に還元できるようこれからも尽力していきたい。

5 群馬県立富岡実業高等学校(富岡市)の事例

(記載 教諭 新木克彦)

活動の内容

富岡実業高校は生物生産科、園芸科学科、食品科学科、電子機械科の4学科各1クラスの学校であり、園芸科学科の課題研究および農業クラブの活動として草花部13人が次のような活動を行っている。

①富岡製糸場植栽交流活動

地元の文化遺産である富岡製糸場の大切さを小学生、幼稚園児に理解してもらうことを目標に富岡製糸場で植栽交流活動を行っている。11月には富岡製糸場内の花壇に地元の幼稚園、小学生138人とビオラを1000鉢、6月にはサルビアを1000鉢植栽した。

②プランター設置による地域の景観作り

富岡製糸場をイメージした木製プランターの制作を行い、それにサルビアの苗を植えたものを富岡製糸場と周辺の商店街の店先、地域の幼稚園や小学校に設置した。植栽に使った花は私たちが栽培指導を行い、幼稚園児、小学生と協力して種子から育てた物である。



富岡製糸場交流活動



幼稚園児とプランター植え

活動で注意している点

①富岡製糸場植栽交流活動

植え方の説明には手作りの紙芝居を行なった。紙芝居の内容を検討し、富岡製糸場の歴史や花の植え方についてオリジナルキャラクターを使い、子供たちに理解しやすく説明することができた。紙芝居が終わった後、内容が理解できたか質問したところ、元気のよい答えが返ってくるなど好評であった。

②プランター設置による地域の景観作り

花の種まきの際には、事前に企画書を作り幼稚園、小学校と打ち合わせをし、分担を決め子どもと離れないようにした。子供たちは初めての作業でも話を真剣に聴いてくれた。細かく指示をしなくても少し手伝うだけで、的確に作業に取り組めるように実施することができた。木製プランターは富岡製糸場のイメージに近づけるためにスプレーで煉瓦の凹凸を表現する等の工夫をした。

活動上の問題点

幼稚園や小学校との交流活動では時間に制約が多く、本来の授業を抜けて公欠で実施することが多い点が問題である。また、観光客の増加により、活動に制限がでてきている点も問題であり、今後さらに観光客が増えてくることが予想されるため、さらに活動に制限が出てくるのが予想される。

おわりに、私たち草花部は10年前から地元の文化遺産である富岡製糸場の世界遺産登録に向けて活動してきた。本年度は世界文化遺産に推薦され、本登録まで後一歩である。

6 栃木県立宇都宮白楊高等学校(宇都宮市)の事例

(記載 教諭 天海 学)

活動の概要

農業系4学科・工業科・商業科・服飾科の、計7学科よりなる学校で、農業経営学科に所属する生徒を中心とした、外部交流活動の一環として実施している。

①市民団体及び、宇都宮市役所と連携し、宇都宮地区の緑化活動に取り組んでいる。

活動内容は、ハンギングバスケットの作成指導を年に3回実施。

②NPO団体の協力を得て、釜川沿いに、プランターを設置する活動。

③宇都宮工業高等学校と連携し、工業高校で作成したプランターに本校生徒が育成した花苗を植栽、地域の催事会場へ設置する活動等、多岐に渡る活動を行っている。

活動が始まってからまだ間もないが、現在では、市の催事において司会を本校生徒が任され、市の信頼も厚く、今後更なる展開が期待できると共に、地域緑化ボランティアの方々とも連携することで、本校の草花を通しての教育に、地域の方から共感を頂いている。



ハンギングバスケット



宇都宮工業高等学校との連携

活動で注意している点

本校における取り組みでは、本校生徒が単独で実施するのではなく、生徒と宇都宮市、他高等学校、地域ボランティア団体が連携し、地域の緑化活動に取り組んでいる。

生徒の学習機会と地域交流の観点で取り組んでいることを重視し、単なる労働作業とならないよう、生徒に各活動の目的を持たせる指導を徹底する。

活動上の問題点

作成・設置に関しては生徒が積極的に参加できる環境を保っている。しかし、設置後の管理に関しては、交通・授業時数の問題から、地域の方・施設管理者へ依頼することが多く、管理作業の学習機会が得られない。

また、資金を市に頼っている部分が多く、活動日時を市に合わせて行わなくてはならないため、生徒の他行事と重なり、参加できない生徒が出てしまう。

7 茨城県立水戸農業高等学校(那珂市)の事例

(記載者 教諭 宮地 富雄)

活動の概要

全日制7学科、昼間定時制1学科の8学科、全校生徒は860名ほどの農業高校である。「環境美化活動ボランティア」は、那珂市のボランティア団体「なかなか塾」が主催となり、水戸農高が協力をする形で実施している。「なかなか塾」は、明るい豊かな町づくりに寄与することを目的に那珂市に平成8年に設立された団体で、水戸農高では、道路ボランティアサポート事業に協力している。「道路里親制度」を活用して、県道那珂インター線の道路脇の雑草地を開墾して、花壇の整備や除草、道路清掃などの美化活動を実施している。水戸農高では、6月（マリーゴールド、サルビア、ペゴニア、ペチュニア）、12月（パンジー、ビオラ、ハボタン）の年2回植え付けを実施している。使用する草花苗は、水戸農高農業科で栽培した草花苗を1回で約2,000ポットを購入してもらっている。

「なかなか塾」から学校長宛に依頼文があり、農場部で受けて、係がとりまとめをしている。農業科草花専攻が窓口となって、学校全体に「環境美化活動」ボランティア募集をして、生徒、保護者名で承諾書の提出をしてもらい、事前指導をして活動している。事前指導では、生徒に、花は人を和ませてくれる力がある。高速道路を利用するドライバーの方々の心を和ませてくれ、安全運転につながることを期待して道路脇の花壇づくりをするという目的を話している。また、地域の方々も大勢参加するので、礼儀・マナー・言葉使いなども意識するように話している。

6月は、卒業学年の生徒が進路決定前の活動として多く参加して、約30名の生徒の応募がある。また、12月は、20名程度となっている。「なかなか塾」から近隣の那珂高校ボランティア部、なるみ園の協力依頼もあり、多い年は約80名の参加者となる。生徒の活動時間は、9時から13時頃となっており、ボランティア活動後に弁当が配布される。

数年前は、「とにかくたくさん植えよう」という意識で15時頃まで実施したこともあった。しかし、日陰や生育の悪い場所は、ヒマワリを播いたりして、効率的・効果的な方法に変更した。



平成24年12月8日 ハボタン植え付け



平成25年6月22日 ペゴニアなど植え付け

活動上の問題点

①かん水施設の設置が必要

花壇にかん水施設がなく、6月はビニールマルチをして植えているが、根付き、生育が悪い場合もあり、かん水施設があるとさらに作業効率が良くなり、立派な花壇ができると考えられる。

②雑草防除

植え付け後の雑草防除は、「なかなか塾」が行っている。夏期は、特に雑草防除が大変である。

8 神奈川県立中央農業高等学校(海老名市)の事例

(記載 教諭 高橋晋太郎)

活動の概要

本校は神奈川県ほぼ中央に位置する海老名市にあり、創立107年を迎える園芸科学科2クラス、畜産科学科1クラス、生産流通科（今年度から新学科の農業総合科へ）2クラスの3学科5クラスで生徒数577名の農業高校です。

園芸科学科では、授業や部活動を通して、単に草花を育てるだけでなく、荒地だった正門に40メートルもの花壇を製作し、栽培した草花を使用して四季折々の花を地域の方々に楽しんでいただいています。農業高校らしい花壇として、年間100種類の草花が咲き乱れる花壇を目標に管理を行い、新聞にも掲載されるほど立派な花壇へと成長しました。

農業クラブの専門研究部に所属する草花部では農業高校で学んでいる技術をもとに、地域の方々との交流の機会を持ち、「自分たちにしかできない活動を展開したい」という思いから、公共施設花壇作りなどの地域活動を展開しています。

公共施設などの花壇植栽では、放課後や休日に学校で栽培した草花を使用して地元海老名市役所（10コンテナで年間400ポットの草花苗使用）や東名高速道路海老名サービスエリア（年間1,000ポットの草花苗使用）、海老名消防本部（年間200ポットの草花苗使用）の花壇植栽を行っています。四季折々の花を使用し、年間を通して管理しています。さらに、特別養護老人ホームにも10個のプランターを季節ごとに設置し、お年よりの方々に季節の変化を楽しんでいただいています。平成元年から継続して25年目になります。



海老名消防本部花壇植栽



海老名サービスエリア花壇植栽

活動で注意している点と効果

当初は多くの方が楽しんでくれればと、花壇の植栽を行っていましたが、花壇にたばこの吸い殻や空き缶が捨てられていたり、植えた花が踏まれていたり引き抜かれたりと、現実には厳しく、放課後や休日を割いて花壇植栽を行っていた生徒達にとっては、悔しさや、むなしさを感じさせるものとなってしまいました。そんな花壇植栽も、作業中かけていただく「いつもありがとうね」「きれいになったわ」などの温かい言葉に、生徒たちは「中農生の花壇を楽しみにしてくれている方もたくさんいる。」「これからも頑張ろう!」という気持ちになってくれました。生徒が学んでいる技術が、社会の役に立ち、生徒は「自分たちが必要とされている」という、自己有用感が芽生えています。そして、農業高校で学んだ技術を生かしての活動は、「花を通して多くの人を

笑顔にすることができた」という大きな達成感や自信となって生徒たちに返ってきています。

現在では、農業高校らしく、四季を感じられる花壇の植栽ができるよう、日々草花の勉強に励んでいます。

活動の問題点

このような活動は、ボランティア活動であるため休日返上を覚悟で取り組まなければなりません。さらに、地域活動は、継続性や、長く続けることが最大のポイントになります。花壇の維持管理や、雨天時の計画の変更など、予備日を設けて活動できるように予定を組むこと、継続して行っていくための職員の体制作りなどが課題です。

9 神奈川県県立吉田島総合校(足柄上郡開成町吉田島)の事例

(記載者 草花部部长 2学年 秋山由里)

農業クラブ草花部の一年間の活動

私達は、地域への草花を通してのボランティア活動をしています。日頃私達が育てた植物を利用して、地域への行事等に積極的に参加協力し役立ててもらおうという活動です。特に最近では、卒業式の飾花指導が、大きな活動の中心になっています。開成町の公立学校5校の他に今年は新たに、他の市町村の小中学校3校も飾花しました。

そのほか、開成町の幼・小・中学校でのパンジーの植え付けと栽培指導、年間2回の開成町駅前花壇の植え付け、開成町を明るくする会の講演会会場の飾花、小・中学校を含む5カ所のヒマワリの栽培・植え付け、心身障がい児者と家族の会のクリスマス会での飾花、開成町駅前交番の草花の植え付け、無料寄せ植え教室、コサージュ教室、食育紙芝居の上演・配布などです。



開成駅前花壇植え付け



幼稚園での植え付け指導

植物を通してのボランティア活動は、今年で17年目となります。無理のないように徐々に活動の幅を増やしてきました。本校の卒業式の花を利用した飾花活動も今年で4年目です。近年、飾花に参加する生徒や先生が増えました。しかし大変なのは花を飾ることではありません。花を栽培・管理することです。そこで今年から各学校の先生たちの手により夏休みに種まきを行ってもらいました。11月まで本校で栽培しその後、各学校にて卒業式用のプラ鉢に植え替えを行い、幼稚園児や園芸委員の生徒との交流を持ちました。開成町の幼・小・中学校ではパンジーの植え付け栽培指導も行いました。特に今年は積極的に出向き、交代でしたが、総日数が70日間行いました。自分達で栽培するより何倍も大変でしたが、やりがいを感じました。

地域貢献度

卒業式の花は、売れ残った生育の良くない苗を使用します。卒業式の飾花は3月です。少し大きめの鉢に植え替えてちょうど良い大きさになります。今年の卒業式の飾花では、TV神奈川や地域のケーブルTV、各社の新聞取材もありました。神奈川新聞では、卒業式飾花、食育紙芝居、開成駅前花壇と今年になり3度も取材していただきました。もちろん各行事は、開成町の広報でも紹介されました。



中学校卒業式飾花

どの行事も、私達の単独の活動ではなく、多くの人を巻き込んで活動しています。今年の開成駅前花壇の植え付けは松田警察署のスクールサポーターの皆さんと行き、非行防止キャンペーン（昨年秋も同様）も行いました。また平成25年度は、ボランティアスピリット賞関東ブロック賞を受賞し全国表彰式（12月23日国際フォーラム）に参加します。



非行防止キャンペーン

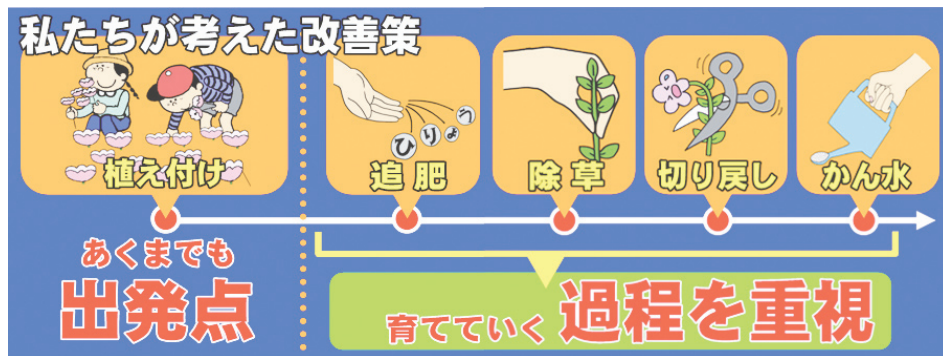


小学校での栽培指導

1年間の活動の中でもっともうれしかったのが、幼稚園の卒園式の時に園児達からもらった押し花のメダルです。10月と1月にパンジーの植え替え・交流会を持ったときに昨年のボランティアスピリット賞のメダルを見せたところ園児達が喜んでくれて、一人ひとりに手渡して重たさを感じてくれました。また、2つあるのにもビックリしてくれました。園児達の一生懸命さや素直な心の中に真心を感じました。教える私達が反対に園児に教わることばかりでした。また卒園式から数日後、一人の卒園児から手紙が本校に送られてきました。あどけない字で書かれた「ありがとう」は、心にしみました。小学校に行くと生徒が気さくに話しかけてくれます。特に1年生は昨年一緒に花を植えた友達です。5・6年生の園芸委員の生徒も幼稚園の時に花を育てました。もちろん中学生も同じです。今年で17年目ですから開成町の住民の32歳までの人はこの活動を行なっているはず。私達の活動に重みを感じます。また、開成町の駅前花壇の植え付けに「参加協力したい」と申し出があり、松田警察署補導員、開成町スクールサポーター、開成町更正女性会等多くの人に参加してくださいました。今年の花壇の図案タイトルは「とびだせみらいへ」です。多くの人とつながり絆を深めることができました。噴水から何回水を運んで、手がちぎれそうな位冷たく重いバケツも、夏の暑いときの植え付け作業も地域の一人として当たり前の努力なのだと感じました。

10 おわりに

農業高校の花いっぱい運動は、小中学校等と異なり、自分の学校を飾ることにとどまらず、今回紹介したように、地域を花で飾る、花によるまちづくり活動を主に行っている学校が多く、しかも幼少中学校等や地域団体と連携しながら行っているようである。農業高校における学習は、普通高校の教科書を主体とした知識としての学習だけでなく、栽培や飼育をとおしての体験的学習を行っているが、近年では、農業体験学習、環境保全活動、地域特産物の商品化等、農業高校の特性を生かした多様な地域活動を積極的に行なっている。これらは地域貢献型学習とも言われ、地域の人と交流することによる、人とのふれあいをとおしての学習でもある。花いっぱい運動はまさにこうした活動であり、学習したことをもとに地域に働きかけ、そのことによって地域から学ぶという循環の中で行われている。花いっぱい運動は生徒がアイデアを出し合い課題解決型学習として展開でき、生徒に成就感、達成感を持たせることができる。また、生徒は活動が地域に認められ、評価され、学習したことが人のためになるということで学習意欲を高め、人とのふれあいを通して共に生きることを学び、社会性、人間性の涵養を図ることができる。



私は長年花いっぱい運動に携わり、地域の人と協力しながら行ってきたが、花を美しくしようとする人がいてこそ、花は美しくあることができ、花を真に楽しむことができると考えている。生徒の発表でも地域団体には花を植え付けて終わりではなく、植え付けた後も草取りや花がら取り、水やりなどの手入れをお願いし、効果的な方法も発案しながら、継続的な管理をしてこそ主体的な活動となり花を育てる楽しみを味わうことができると提案した。今後も、全国の農業高校生が地域と連携しながら花いっぱい運動、花のまちづくり活動が発展していくことを期待する。

切花収穫体験と花束作り・コサージュ作り 「地元の栽培温室で作っている花のことを学ぶ、楽しむ、贈る」

作成者：香川県東讃農業改良普及センター 花き担当 副主幹 小林弥生

- 対象者・人数：小学校5・6年生 20名 程度
- 所要時間：収穫体験と花束作り 2時間30分
コサージュ作り 1時間
- 対象場所：小学校ランチルーム、切花栽培温室、切花集荷場
- 指導者・アシスタント人数：栽培の講師（カーネーション生産者）1名
アレンジの講師1名、サポートスタッフ2名程度

■ 資材

<1部 花束作り>

- ・アルミ箔
- ・ペーパータオル
- ・セロハンなどスリーブ
(花束を包む為の筒状の専用ビニール)
- ・切花用ハサミ ・観察シート
- ・輪ゴム ・バケツ
- ・メッセージカード（ミニ絵本）

<2部 コサージュ作り>

- ・アルミ箔
- ・ペーパータオル
- ・切花用ハサミ
- ・輪ゴム
- ・霧吹き ・ダンボール（コサージュを保管する）

■ 花材

- ・カーネーション 7~10本
花生産者の温室で子供が収穫したものを用いる
- ・ブプレウラムやリキュウソウなどの葉もの 2本程度



カーネーション



ブプレウラム

【指導内容と目的】

- ・ 学校区で栽培されている花について学習する。
- ・ 温室の中や、集荷場など実際に栽培している様子を見学し、直接生産者に聞くことによって、学習する。
- ・ カーネーションの花に多様な品種があることを学び、その中から、自分の好きな花を選ぶことで喜びを感じてもらおう。花の収穫方法を学ぶ。
- ・ 花束の作り方やコサージュの作り方を学ぶことによって花の利活用方法を学ぶ。
- ・ 花束は両親に、コサージュは卒業生に送ることで、花を贈る喜びを感じてもらおう。
- ・ 実際に家に飾って花のある生活のよさを感じてもらおう。

【対象者への配慮】

- ・ 温室の中の作業もあるので、動きやすい服装、体操服や夏場は帽子や水筒を用意する。
- ・ 花を切るときは切花用のハサミを用意する。

ハサミを使用する前に、必ず切り方について説明する。

花の紹介をするとき、その花の特長や名前の由来、産地、花の特徴などを説明する。

花を生産している方に説明いただき、疑問に答えてもらう。

カーネーションの色別の花言葉や365日誕生花の資料を取り入れ、自分の誕生花を知ることによって、興味をもってもらおう。



カーネーション色別花言葉資料

■ 1.指導計画・スケジュール

【第1部】カーネーション収穫体験と花束作り

2月実施（6年生対象）

- | | |
|----------------|-----|
| ①カーネーション栽培温室観察 | 15分 |
| ②カーネーション収穫体験 | 15分 |
| ③花束作り | 30分 |
| ④メッセージカード作り | 10分 |
| ⑤生産者への質問コーナー | 20分 |

（学校から温室への移動時間 30分×2）

【第2部】卒業式に贈るコサージュ作り

3月実施（5年生対象）

- | | |
|------------------|-----|
| ①コサージュ作り | 50分 |
| ②カーネーションについての説明等 | 10分 |

■ 2.事前の準備

○花生産者との打ち合わせ

どの時期に花がよく咲いているか、時間的に余裕のある月、曜日や時間などを事前に聞いておく。また花育をするにあたっての要望も聞いておく。

○学校との打ち合わせ

- ・学校の行事は4月に決定することが多いので、年度の早い時期に年間計画を決める。コサージュは卒業式に使用するので日程を把握しておく。
- ・収穫体験は花生産者の温室で実施するので、学校から温室までの距離や移動方法について相談しておく。
- ・実施場所の確認をするとともに、先生の要望も伺う。
- ・児童数の確認をする。
- ・当日の服装やスケジュールの確認をする。移動時間もかかるので、時間に余裕のあるスケジュールを組めるよう、時間割の確認をしておく。
- ・事前学習をするかどうか確認するとともに、資料の確認をする。

○事前カーネーション学習

カーネーションの事前学習資料を先生に印刷を依頼し、事前学習を行う。

（カーネーションの種類や、県内での栽培について）希望があれば、花の生産者に講師になってもらう。

○前日までに用意するもの

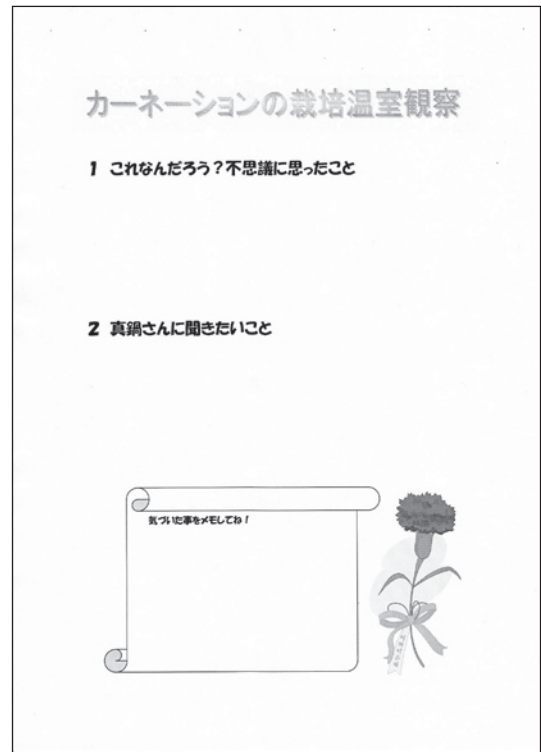
<第1部>

アルミ箔を15cm角に切る。

ペーパータオルを15cm角に切る。

観察シートをコピーする。

メッセージカード（ミニ絵本）を用意する。



観察シート

<第2部>

アルミはくを15cm角に切る

ペーパータオルを15cm角に切る。

コサージュを保管するダンボール・霧吹きを用意する。



メッセージカード（ミニ絵本）

○当日の準備

<第1部・2部共通>

- ・バケツの用意
- ・準備物を机に並べる
- ・ゴミ袋を設置
- ・荷物を置く棚を用意

その他 実施場所、児童の動線・危険物を確認する。

(温室から、集荷場、学校など移動時間も確認)

■ 3.当日の流れ

・時 間 (所要時間) :

<第1部> 2時間30分 (内移動時間1時間含む)

<第2部> 1時間

【第1部】 カーネーション収穫体験と花束作り

①学校から生産者の栽培温室に徒歩で移動開始 約30分

収穫体験は実際に花生産者の栽培温室で行う。学校から栽培温室への移動は学校の先生に依頼する。

その際の注意点として、夏場は暑いので、帽子や水筒の準備、動きやすい体操服で来るよう担任の先生に事前に依頼しておく。また、冬場は、山間地は雪が降る場合もあり、悪天候になる場合があるので、そのような際に車を利用するか、延期するかなど、事前に打合せをしておく。また冬場の移動時は防寒着を着用するようにする。



生産者の栽培温室



学校から栽培温室への移動

○栽培温室観察 15分

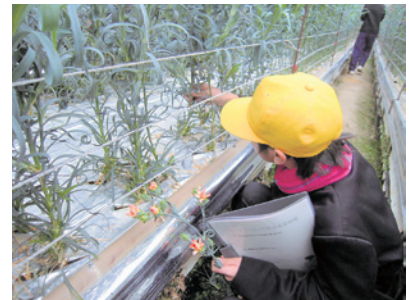
②花の集荷場の前で挨拶、講師の自己紹介をする。

水筒などの荷物を置いて、栽培温室に移動する。その際事前に渡しておいた観察シートをクリップボードに挟んで筆記用具持参で移動する。

③生産者が温室内でカーネーションの説明をし、ハウス内を自由に散策し、不思議に思ったことや疑問点を観察シートに記入してもらう。

(指導のポイント) どんな細かいことでもいいので、不思議に思ったこと、感じたことをできるだけ、多く記入してもらう。その際、最低5つなど目標を決めておくといよい。

生産者からの回答は最後にまとめて答えてもらう。



○カーネーション収穫体験 15分

④生徒全員を集めて、カーネーションの収穫方法を説明する。

⑤そのあとで5人から7人ずつ、生産者2人に分かれて、実際のカーネーションを近くで見ながら収穫の方法を実際に説明する。

(指導のポイント)

- ・カーネーションの場合は、ハサミを使用しないで、節で折る。折る節の下を左手で押さえて右手で花の付いた茎を持ち、横下方向に傾けながらポキッと節で折る。
- ・意外と難しいので、節を確認しながら折ること。また切花が短くなる場合が多いので、最初に花束をいれるセロハンのスリーブを見せて長さを確保するように促す。
- ・収穫した後は、花が傷まない様、丁寧に扱うよう指導する。
- ・栽培温室には数多くの品種があるので、好きな色や好きな花形を自由に収穫し、花のバリエーションを楽しんでもらう。カーネーションには一輪咲きのスタンダードタイプと房咲きのスプレータイプ、ミニティアラなど、いろいろな種類があることを覚えてもらう。
- ・収穫本数は8本程度とする。



○花束作り 30分

⑥集荷場に花を持ち帰り、鮮度保持材の入っている液につけておく。

その際、自分の収穫した花は茎を輪ゴムでとめておく。

⑦机の上にある花束作りの材料の確認とハサミの使用方法について説明する。

・それぞれの場所に用意した、アルミホイル、吸水したペーパータオル、輪ゴムを確認。

・ハサミの刃先を他人に向けないように注意する。

ふざけたりすると怪我をする場合があることを説明する。

⑧花の切り方の説明

花束が出来上がった姿を想像して花の位置を確認し茎の切る位置決めをしてから茎の下を切り詰める。その際、花の頭がスリーブの少し下に収まるようにし、茎の下先端はスリーブより少し長くする。スリーブを花の下において位置決めするとよい。茎が短くなった場合はスリーブの下を切り詰めて調整する。スタンダードタイプを中央のやや下のほう、スプレータイプをやや上のほうに配置するとバランスがよい。



⑨花束の作り方の説明

輪ゴムをかけて花束を作ったのちに、根元をアルミ箔でくるむ。

アルミ箔の上に濡れたペーパータオルをおき、その中央の中ほどに根元を置いて、アルミ箔を折りあげて、くるくる巻きつける。

花束のアルミホイルの部分を持ってスリーブの上開口部から花束をいれる。



⑩アレンジを開始

⑧⑨に気をつけて自由に花束を作る。

アレンジに対して注意はできるだけ控えて暖かく見守る。スタッフで見回り、困っている子供達にはアドバイスする。

⑪片づけ

机の上や床のゴミを片付ける。ゴミは茎を短く切って捨てるよう指導する。

○メッセージカード作り 10分

6年生を対象にしている場合は、卒業もまじかに控えているので、ご家族への感謝の気持ちを込めてメッセージを書いてもらう。

メッセージカードはどのようなものでもよいが、香川県のオリジナル品種であるミニティアラの手作りミニ絵本を作成し、その最後にメッセージを書くようにした。



○花の今後の管理と、カーネーションにまつわる説明

花をプレゼントした後は、家の花瓶や花瓶がない場合はペットボトルや牛乳パックで花瓶を作って、花をいける。その際、茎はもう一度ハサミで1センチ程度きり戻して、水揚げをよくすることの説明をする。

また、カーネーションには花の色ごとに花言葉があること、それぞれの誕生日に誕生花があることを説明し、花に愛着を持ってもらう。

○花生産者への質問コーナー 20分

温室内を観察して疑問に思ったことを、生産者に答えてもらう。

質問例

- ・カーネーションは何種類くらいありますか？
- ・温室の中にマス目の網がありましたは何ですか？
- ・なぜ、うねの上に銀色のシートをはっているのですか？



○終了の挨拶

【第2部】 卒業生に贈るカーネーションのコサージュ作り

①机の上にある花束作りの材料の確認とハサミの使用方法について説明する。

- ・それぞれの場所にアルミホイル、吸水したペーパータオル、輪ゴムを用意しておいたものの確認。
- ・ハサミの刃先を他人に向けないように注意する。隣の人とふざけたりすると怪我をする場合があることを説明する。

②花の切り方の説明

コサージュにはスプレータイプのカーネーション・香川県オリジナル品種であるミニティアラを使用するので、1本を枝振りを見ながら2本に分けます。その際、花のつき方に注意し、1本がそれぞれ15cm程度になるように切り分けます。

3本のカーネーションを切り分けて全体で5~6本になるようにする。



③コサージュの作り方の説明

カーネーションの花を上下にずらして配置し、その間にブプレウムやリキュウソウなど季節の緑の葉ものをいれます。

バランスがよくなったら、茎の下を輪ゴムでとめる。

④アレンジを開始

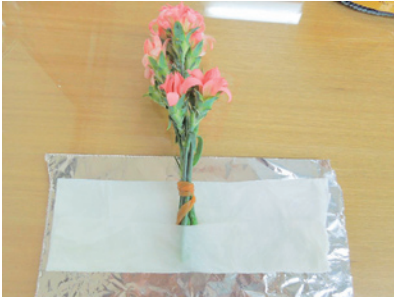
最初に自分の好きなカーネーション3本を選ぶ。

カーネーションを切り分けるのはむずかしいので、スタッフが見回りアドバイスする。アレンジに対して注意はできるだけ控え、暖かく見守る。



⑤根元をアルミ箔でくるむ。

アルミ箔の上に濡れたペーパータオルをおき、その中央の中ほどに根元を置いて、アルミ箔を折りあげて、くるくる巻きつける。



⑥片付け

机の上や床のゴミを片付ける。ゴミは茎を短く切って捨てるよう指導する。

⑦作品の鑑賞

完成したコサージュを各自の制服のポケットに入れて、みんなの作品を鑑賞する。

⑧生産者から、使用したカーネーションの説明を受ける。



⑨コサージュを回収し保管

コサージュは卒業式で使用するので、ダンボールに並べて保管し、花や葉に水を霧吹きする。ダンボールのコサージュの上にはペーパータオル等を敷き、乾燥を防ぐ。学校で保管する場合は廊下など涼しいところで保管すると2~3日もつ。

※コサージュは、制服のポケットに差し込む形にした。また、コサージュの基部を濡れペーパータオルでくるんでいるのは、花を長持ちさせるためで、持ち帰った後も、家庭で長く楽しんでほしいという、生産者の意向を取り入れたものである。



さめきの咲っちゃん通信

vol.4



特集：カーネーション

みんなは、カーネーションを知っている？ 実はカーネーションにはいろんなひみつがあるんだよ。今日はそんなカーネーションのひみつをみんなに教えるね！

カーネーションって、どんな花？

カーネーションのふるさはヨーロッパの地中海。大昔から栽培されていて、ヨーロッパでは聖母（せいぼ）マリアの流した涙（なみだ）ともいわれてるんだ。日本に昔からあるなでしこやせきちくもカーネーションのなかまだよ。



カーネーションのなかま、セキチク

こんなに作ってるんだ！香川のカーネーション！

香川県でカーネーションが栽培されるようになったのは、昭和6年（1931年）。香川町で初めて栽培されたんだ。今香川県では、1年間で約1千万本のカーネーションが栽培されているんだよ。



母の日にカーネーションをおくるのはなぜ？

母の日は、今から100年前の1907年、アメリカのアンナ・ジャービスという人が、亡くなったお母さんをしのんで教会に白いカーネーションをおくったのがはじまりなんだ。今では、お母さんに赤いカーネーションをプレゼントするのがならわしになっているよね。



カーネーションは、どのくらい種類があるの？

カーネーションには、1本の茎にたくさんの花がつくスプレータイプと、1本の茎に1個だけ花が咲くスタンダードタイプがあります。それぞれのタイプにたくさんの色の花があり、あわせると1000種類以上のカーネーションが、日本全国で栽培されています。



スタンダードタイプ



スプレータイプ

カーネーションはどんな色があるの？

日本で一番たくさん売られている色は、スタンダードタイプでは赤、スプレータイプではピンクです。他にもオレンジ、黄色、緑、白、紫など様々な色があります。変わった色では、茶色（ベージュ）や、1つの花で2色の花もあります。



新しいカーネーション「ミニティアラ」

香川県では、これまでにないような、新しいタイプのカーネーションの生産が始まっています。名前は「ミニティアラ」。妖精の冠のようなかわいいたカーネーションです。



まるで冠のような形の「ミニティアラピンク」。カーネーションに見えますか？

みんな、カーネーションのことよくわかった？
いろいろなカーネーションで楽しんでね。



さめきの咲ちゃん通信 vol.4
 編集・発行 花の里かがわ推進委員会
 (〒760-8570 香川県高松市番町 4-1-10
 香川県農政水産部農業生産流通課内)
 TEL 087-832-3422 FAX 087-837-2481
 発行日 平成22年1月11日

児童センターの小学生を対象にした花育 「簡単に飾れるクリスマスのいけばな」

作成者：公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事 新藤華浩

- 対象者：児童センター利用児童 人数 20人
- 所要時間：1時間
- 指導者・アシスタント人数：講師1～2名 児童センター職員1名
- 実施場所：さいたま市立春野児童センター

■ 資材

- ・ 資材店の器
(100円ショップの器・紙コップ・ペットボトルでも可)
- ・ 切り花用ハサミ
- ・ 吸水性スポンジ
- ・ 持ち帰り用の袋 (レジ袋でも可)



■ 花材

- ・ 季節の花、年中行事や五節句の花などをテーマカラーを決めて選ぶ。
(和風にとらわれない。ハロウィンに黄色い花、クリスマスに赤・緑・白など)



【指導内容と目的】

- ・児童と一緒に体験する。子供が作る姿を保護者に見学してもらう。
- ・色も大事だが、枝のかたさ草花のやわらかさという、触った違いを楽しむ。
- ・枝も草花も生物だということを理解してもらう。
- ・何処に飾ろうか、誰のために飾ろうかと意識しながら制作する。
- ・植物と行事についてのお話しをする。長い間人間と植物の営みについて興味を抱かせる。

【対象者への配慮】

- ・自分自身でつくる喜びに気付かせる。
オンリーワンの作品作りは、手作りが大事だと認識させる。
できるだけ指導者、保護者は見守ることにとどめる。
- ・準備・制作・片付けで、一度のお稽古と知ってもらう。
- ・ケガには注意する。
- ・家に持ち帰ってからの、手入れ方法を説明する（水入れなど）

1.事前の準備

■ 主催者との確認事項

- ・駐車場、ストックスペースの有無
- ・児童センターは和室か洋室か（和室より洋室の方が掃除が楽）
- ・ホワイトボード、バケツなど施設備品で借りられるもの
- ・当日の対象学年の確認
- ・机のレイアウト
- ・タイムスケジュール

■ 使用する花材の準備

- ・500円で人数分に見本を1つ付けて用意。見本は事前に作っておく
- ・吸水性スポンジはある程度のサイズにカットしておく

■ 当日の準備

机をセットし、児童の右側にハサミ、中央に器と吸水済の吸水性スポンジ、左側に枝と草花を置く。（左利きの場合は逆）

ホワイトボードに花の名前、科属、原産地を記載（科属・原産地は分かる範囲で）

ゴミ入れの袋を部屋のすみに置く。

2.当日の流れ

■ 具体的な手順

①最初と最後に大きな声で挨拶。

ゆっくりと説明する。できるかぎり大人と同じように接する。指導者は一人が前、一人が後につく。



②今日のお約束を最初にする。

「ハサミはこちらが言うまで触らない」「お花は自分で水が飲めないなので、家で必ず水をあげて欲しい」「できたらお互いの作品を褒め合う」

③お花の名前、科属、原産地を説明。

1本1本取り上げて見せる。年中行事や有職故実など普段の学校で出せない知識を積極的に提供する。



④実際の作業手順の説明

完成している見本を一度分解して再度作っていく。できればもう一人の指導者と交代する。児童に指導者がメインとサブという意識を持たせずどちらも先生だと認識してもらう。まず第一段階まで説明。

⑤第一段階まで説明したら第一段階の作業開始。各テーブル巡回。必ず児童と同じ目線に座る。全員終わったら第二段階説明というように④→⑤→④→⑤をくりかえす。だいたい三段階にわけていく。



⑥指導。色・形・創意工夫・など良くできたところを見つけてあげる。

⑦片づけ。最後に今日の言葉。「一期一会」などいけばなでよく使われている言葉を解説。挨拶。



■ 指導ポイント

長さや角度は説明するが、見本は見本である。正解不正解はないので、個人のこだわりは最大限優先する。

刃物を使うので細心の注意が必要なこと、ふざけながら使ってはいけないことなどを理解させる。指導者がケガした経験談などを話す。

その他、

いけばなは500年以上の歴史がある。それはその時代その時代の人在必死につないできたものだ。家の形や使う植物が変わっても花のある生活が、どれだけうるおいのあるものかができるだけ自らの言葉で語る。

■ 所要時間や配分

- ①挨拶（自己紹介）…………… 5分
- ②注意事項…………… 2分
- ③花の説明…………… 3分
- ④作業手順説明・作品作り… 5分×3段階
- ⑤作業手順説明・作品作り… 5分×3段階
- ⑥講評…………… 15分
- ⑦片付け…………… 5分

地域特産の花を学んで楽しむ 「地域特産の花を使ってプリザーブドフラワーを作ろう」

作成者：香川県小豆農業改良普及センター 花き担当 副主幹 藤田 則久

- 対象者・人数：小学校 中高学年 20人～30人
- 所要時間：4時間半程度（3回の授業の合計）
- 対象場所：小学校
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名

補助者 生徒5～6名に1名

■ 資材

○プリザーブドフラワー用材料

- ・染色液 ・カップ ・花切り用ハサミ
- ・割り箸 ・卵ケース ・スポイト
- ・糊 ・空き缶 ・シリカゲル
- ・キッチンペーパー ・ビニール手袋 ・マスク

○コサージュ用材料

- ・プリザーブドフラワー（大1、小1）
- ・針金（20番、22番、26番）各1本
- ・リボン（1～2本） ・羽（2枚） ・安全ピン 1個
- ・葉（1枚） ・フローラテープ 50cm
- ・道具類（ペンチ、ハサミ、ホットボンド）



卒業生の胸を飾るコサージュ



鮮やかな色に仕上がったコサージュ



コサージュ作成資材一式



プリザーブドフラワー作成資材一式

■ 花材

- ・キク（輪ギク・白色・ある程度開いたもの・1本）
- ・キク（輪ギク・白色・固いもの・1本、白色の小ギクやスプレーギクでもよい）

【指導内容と目的】

- ・花材を農家の畑から自分たちの手で収穫したり、農家に質問することで、花作りの苦勞はもとより、地域の特産品の歴史や農業の大切さを学ぶ。
- ・完成した作品を学校最大の行事の一つである卒業式で、卒業生の胸を飾ることにより、花を贈る喜びを感じてもらうとともに、地域の花についてより多くの方に知ってもらおう。
- ・作った作品を家に持ち帰り、家族で話題にしてもらうことで、地域の産業に家族で関心を持ってもらう。
- ・「仏花」のイメージが強いキクをプリザーブドフラワーに加工し、華やかなコサージュに仕上げることで、キクの新しい魅力や使い方を知ってもらう。
- ・補助者（地元の農家やJ A職員）との作業を通じてのふれあいにより、地域住民との交流を深める。

【対象者への配慮】

○花材の収穫体験

- ・キクの収穫には鋭利なせん定ハサミを使うので、その取扱に十分注意する。
- ・畑の中には収穫中の花があることから、他の収穫物を傷つけないよう、補助者は生徒の行動に気を配る。
- ・温室は外気温との差が大きいことから、特に夏場に行事を行う時は体調に十分注意する。
- ・見学先のJ A施設は、機械等が動いて危険な箇所があることから、生徒が近づかないよう目を離さない。

○プリザーブドフラワー作り

- ・作業時は、ビニール手袋、マスクを必ず着用する。
- ・染色液は臭いがあることから、気分が悪くなる生徒がいないかなど、細心の注意を払う。
- ・花材の漬け込み時、取り出し後の糊付け作業時には、窓を開け換気を十分に行う。
- ・作業には補助が必要な部分があることから、5～6人を1グループとして必ず1人は補助者が付くこと。

○コサージュ作り

- ・鋭利な針金や高温となるグルーガンなど、取扱を誤ると怪我をするものをいくつか使うことから、その取扱に十分注意する。
- ・花の配置やテープの色などは、生徒の自主性を尊重すること。

※重要なポイント

卒業式の日から制作に必要な日数を逆算し、農家の収穫時期と学校の行事開催時期が一致するよう、早い時期から両者と十分に協議する。

行事日と適切な開花具合を合わせるのが一番難しい。



キク農家でキクの作り方を学ぶ



プリザーブドフラワーに使用する白輪ギク
(咲かせ過ぎ、花が開き過ぎていない方が良い)



JA職員からキクの出荷方法について学ぶ



キクを自動で選花する機械を見学

■ 1. 指導計画・スケジュール

月	内 容	場 所	指導者・補助者
8	今年度実施内容の打合せ	J A香川県会議室	アマムデ・アレンジ研究会 J A香川県小豆青壮年部 J A香川県小豆営農センター
10	地域特産の「電照ギク」についての学習	J A香川県池田集荷場	香川県小豆農業改良普及センター
	花材（輪ギク）の収穫	キク農家ビニールハウス	
	プリザーブドフラワー作り（染色液への漬け込み）	小学校	
11	プリザーブドフラワー作り（のり付け・乾燥）	小学校	
2	コサージュ作り	小学校	
3	卒業式での卒業生への着用	小学校	

■ 2. 事前の準備

○花材の収穫体験

- ・メインの輪ギク（大）は、ある程度開かせた方が出来上がりがきれいなことから、農家の収穫物とは別に栽培管理しておく。
- ・体験時に適度な開花具合になっているよう、農家と打合せをしておく。ただし、咲かすほど作業時に花卉が取れやすいので、7分咲き程度とする。

○プリザーブドフラワー作り

- ・限られた授業時間の中で、できるだけ体験に時間が取れるよう、カップや手袋などの資材は事前に机の上に配布しておく。
- ・染色後の乾燥時には臭いが発生することから、生徒が入らない乾燥用の部屋（理科の準備室など）を確保しておく。
- ・染色後の花を取り出す時に使う「卵パック」、乾燥のために使うお菓子等の「空き缶」は数が多く必要なので、生徒達で話し合い協力しながら持ち寄る。
- ・コサージュの完成までには、多々失敗が起こることから、素材が不足することのないよう、余分に作成しておく。

○コサージュ作り

- ・素材のプリザーブドフラワーは、少しの力でもばらけやすいので、失敗した時のために予備を準備しておく。

※重要なポイント

補助者もプリザーブドフラワー作りが初めてという方が多いので、事前に作業内容や手順を確認しておく、当日スムーズに補助ができる。



のり付け作業（必ずマスク、手袋を着用）



各班に必ず1人は補助者が付くこと

■ 3.当日の流れ

・時間（所要時間）：

- 1回目：農家での花材収穫体験及びJAキク選花場の見学（1時限・45分）
花材の染色液への漬け込み（1時限・45分）
- 2回目：糊付け、乾燥（2時限・90分）
（時間的に余裕があるが、1時限では足りない。花の勉強など他の項目を組み入れてもよい。）
- 3回目：コサージュ作り（2時限・90分）

・具体的な手順

- 1回目：花材の収穫体験と染色液への漬け込み
 - ①農家からキクの栽培と収穫方法の説明
 - ②収穫体験（補助者が付く）
《この間、補助者がキクを教室に持ち帰り水あげ》
 - ③生徒からキク栽培の質問
 - ④JAキク選花場を学習
 - ⑤教室に戻り染色液への漬け込み、名札の取り付け
 - ⑥生徒が立ち入らない部屋で20日間保管



花の大きさに合った、最小限の容器を選ぶと良い。
（染色液が少なくすみ経済的）

○2回目：糊付け、乾燥

- ①染色液からキッチンペーパーをひいた卵ケースに取り出し
- ②花がばらけないようにのり付け
- ③生徒が立ち入らない部屋で乾燥（この間、窓を開けておく）
- ④数日間乾燥後、シリカゲルを入れた容器で再び乾燥（この作業は補助者で）



のり付けは、時間をかけ細かく丁寧に



きれいに染め上がった白輪ギク

○3回目：コサージュ作り

- ①キクに固定用の針金を通し、フローラテープを巻く
- ②ピン用の針金にフローラテープを巻きピンに通す
- ③グルーガンで葉と羽を付ける
- ④できあがったものを組み立ててフローラテープを巻く
- ⑤蝶々結びにしたりボンをホットボンドで貼り付ける
- ⑥針金の長さをペンチで切りそろえる



花は、強く握るとくずれてしまうのでやさしく扱う



固定用の針金にフローラテープを巻くと美しく仕上がる



針金に飾りを付けるのはホットボンドが便利



羽や葉を添えると豪華な仕上がりになる



完成後は、ふた付きの容器に乾燥剤を入れて保存する

・指導ポイント

○花材の収穫体験

- ・キクが満開に近いとばらけやすく作業がしづらい。生徒は大きく開いたものを収穫したがるので、補助者が声をかけて6~7分咲きのものを選ぶよう助言する。

○プリザーブドフラワー作り

- ・染色液が高価なことから、漬け込み用の容器は最小限の大きさの物を使っている。このため、容器に入れる際、6~7分咲きでもばらけることがあるので、補助者が補助すること。
- ・生徒は染色液を容器一杯に入れたがるので、必要最小限でとどめること。
- ・糊付けは、細めのスポイトを使い花卉の間に差し込みながら少量ずつ丁寧に行う。生徒たちはおもしろがってたっぷりかけてしまうが、乾燥後、花卉のしなやかさが無くなり、造花のように仕上がってしまうので助言、指導が必要である。

○コサージュ作り

- ・プリザーブドフラワーはばらけないように糊付けをしているが、それでも少しの力で花卉が取れたりするので、取扱いに注意を促す。
花に針金を刺す時は、特に花が壊れやすいので細心の注意を払う。
- ・グルーガンは初めて使う生徒がほとんどなので、火傷などに特に気をつける。



怪我に注意しながらみんなで楽しく作業する



生徒のアイデアを大切に



ついに迎えた卒業式での着用



贈った4年生も贈られた卒業生も感動

「プリザーブドフラワー」ってどんな花？

「プリザーブドフラワー」とは、生花に保存液と着色液を吸わせた後、乾燥させたもの。ドライフラワーと違い、鮮やかな色や柔らかい感触を長期間（注）保つことができる。

欠点は、湿気に弱く、生花よりも破損しやすい。

キクはもちろん、カーネーション、ガーベラ、アジサイ、カスミソウなどいろいろな花で楽しめる。

（注）保存状態にもよるが、高温多湿の日本では3～4年といわれている。

「花育活動図鑑」参考データ一覧

参考データは、「花育」ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。

<http://www.hanaiku.gr.jp>

花育資料集

- 基本的な花と緑の知識「花づくり 土づくり」
- 花ごよみ366「花ことば・誕生花」
- 季節の行事と花
- 漢字で見る植物の名前
- 全国の植物園一覧
- 生活と花と緑のQ&A
- 植物に関するQ&A

花育アドバイザー

- 花育アドバイザー登録制度実施要領



育てる楽しさ、
花咲くよるこび。

<http://www.hanaiku.gr.jp>